

CZ

111

17-0

明治十九年九月分

# 法令類纂

第八號

宮城縣庶務課

031384-001-9

CZ-1113-17-01

法令類纂

宮城縣內務部

M19-24

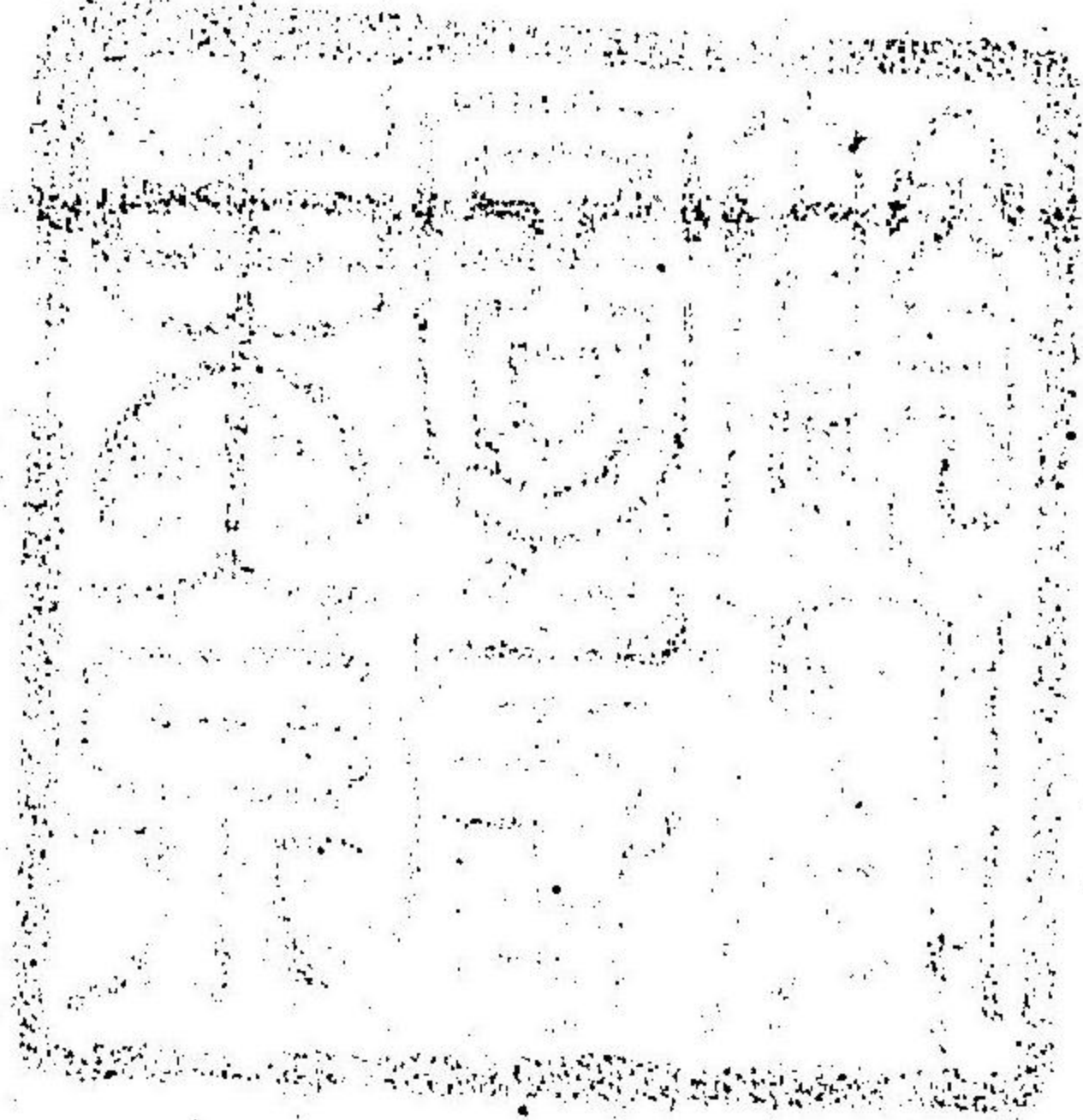
BBD-0665











法令類纂上錄  
明治十九年九月

閣省官制官規

外務省令  
第一號

七月七日

交際官并領事費用條例細則ヲ定ム

在俸給  
旅費ノ部

司法省令  
第四號

九月四日

治安裁判所管轄區郡分管表中追加更正ス

一丁

海軍省令  
第一百五號

九月七日

橫須賀海軍港規則ヲ定ム

四丁

府縣會

縣令  
第二十九號

九月二十九日

桃生郡補欠撰舉會ヲ開設ス

備荒儲蓄

本縣告  
第四十九號

九月二十一日

備荒儲蓄無利子ヲ以テ貸下ノ件

八丁



貸借

司法省令 第三十號

公証人施行條例ヲ定ム

十一丁

衛生

本縣令 第四十五號

山形秋田兩縣ヨリ來ル旅人及ヒ荷物ニ對シ檢疫施行ノ場所ヲ定ム

二十丁

內務省令 第二十三號

虎列刺病流行地認定及解除地方

二十一丁

本縣令 第四十八號

山形秋田兩縣ヨリ來ル旅人及荷物ニ對シ檢疫施行ノ場所ニ更ニ一ヶ所ヲ増置ス

全丁

農商務省令 第十一號

獸類傳染病豫防規則ヲ定ム

全丁

全令 第十八號

全上 心得ヲ定ム

二十六丁

本縣令 第五十號

宮城郡惣釜村虎列刺病發生蔓延ノ兆アリニヨリ旅人ハ勿論貨物ニ至ルマデ同所ヲ經過セス便宜他道ヲ往復運輸スヘシ

三十八丁

本縣令 第五十一號

虎列刺病追々流行ニ付惣釜村ト各地ト交通ヲ遮斷ス

三十九丁

學制

縣令 第十八號

學校幼稚園書籍館設置變更廢止規程ヲ定ム

三十九丁

全令 第十九號

町村立小學校資產管理規程ヲ定ム

四十二丁

全令 第二十號

全上小學校經費收入支出方法ヲ定ム

四十四丁

全令 第二十一號

小學簡易科教則ヲ定ム

四十九丁

全令 第二十二號

小學科中土地ノ情況ニ據リ圖書英語農業商業手工ヲ加フルルノ要項ヲ示ス

五十一丁

全令 第二十三號

小學校教員學力檢定試驗細則ヲ定ム

五十二丁

全令 第二十四號

小學簡易科教員免許規則ヲ定ム

五十三丁

全令 第二十五號

小學校授業生免許規則ヲ定ム

五十八丁

全令 第二十七號

學齡兒童就學規則ヲ定ム

六十三丁

郵便

遞信省令 第八十四號

ハラガイ國及暹羅國ト別配達郵便交換施行

六十四丁



全 第八十五號	告	九 十日	月	石狩國月形市來二等郵便局ヲ三等郵便局ニ改正ス	
全 第八十七號	告	九 二十一日	月	岩代國玉川熱海郵便局改稱	
全 第八十八號	告	九 二十二日	月	伊太利國ト郵便爲替施行	
全 第八十九號	告	九 二十八日	月	三等郵便局廢置	

燈臺

遞 信省告	第八十三號	九 二日	月	船燈信號器製造販賣規則中事務主管ヲ定ム	六十五
----------	-------	---------	---	---------------------	-----

船車

遞 信省告	第八十二號	八 三十日	月	西洋形船へ信号符字點布	
遞 信省告	第八十三號	九 二日	月	船燈信號器製造販賣規則中事務主管ヲ定ム	在燈臺部
本 縣照會	第二十一號	九 十五日	月	本年訓令第一号政表調製中船舶取調方離形ヲ示ス	
遞 信省告	第八十六號	九 十八日	月	西洋形船へ信号符字點付	

農商工

農 商務省令	第十號	七 九日	月	商標登錄手數料及專賣免許料納期改正	六十五
全	第十七號	七 全日	月	專賣特許諸願書式中刪除	六十六
縣	第十六號	九 十一日	月	明治十七年(十一月)甲第九十四號布達漁業取締規則 中更正ス	全
縣	第二十六號	九 二十二日	月	本年六月甲第四十號布達印紙賣捌所位置并員數ヲ變 更ス	全
本 縣照會	第十二號	九 二十二日	月	夏成物被害耕地概算表等取調へ様式ヲ示ス	丁

銀行

大 藏省令	第二十八號	九 二日	月	日本銀行發行ニ係ル兌換銀行券ノ價造及描改ノ分取 扱方ヲ示ス	六十七
全	第四十二號	九 二日	月	前上取扱方ノ儀ハ尙ホ明治十四年(十一月)當省乙第 四十號達ニ準據スヘシ	全
全	第八十四號	九 六日	月	第百十五國立銀行移轉	丁
大 藏省告	第八十一號	九 十五日	月	第四十六國立銀行移轉	



國稅

縣令 第二十八號 九月二十八日 自家用料酒製造者ノ免許届書式并ニ標札書式ヲ定ム 六十八丁

地方稅

縣令 第十三號 九月四日 明治十九年度地方稅収支豫算ヲ定ム 六十九丁

縣令 第十四號 全日 全年度地方稅豫算追加戸數割ハ本年七月一日現在ノ戸數ニ均賦ス 七十丁

縣令 第十五號 九月八日 全年度地方稅収支豫算中衛生及病院費并戸數割ニ追加シ其戸數割ハ本年七月一日現在ノ戸數ニ均賦ス 全丁

縣令 第十七號 九月二十一日 全年度地方稅追加戸數割徵收期日ヲ定ム 七十一丁

出納公債

大藏省訓令 第四十一號 九月一日 十九年度第二部歲入科目表免許及手數料ノ款手數料ノ項中ヲ更正ス 全丁

內務省訓令 第二十八號 九月四日 明治十九年度歲出豫算中縣令交際手當仕拂殘額ハ知事交際手當ニ組換其金額ヲ報告セシム 全丁

俸給旅費

本縣訓令 第五號 九月四日 印紙賣捌人ヨリ返納シル印紙類代金下付請求書差出方心得ヲ示ス 七十二丁

全訓令 第六號 九月四日 本年(四月)乙第十五號達第二部歲入徵收監督手續ヲ定ム 七十四丁

大藏省訓令 第四十四號 九月四日 歲入歲出出納規則書式中歲入下戻計算書ニ記載方 七十六丁

全訓令 第四十五號 九月二十五日 諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序第三條中增加 全丁

全訓令 第四十六號 九月二十七日 全公債元利賦金取扱心得 全丁

外務省令 第一號 七月十二日 交際官并領事費用條例細則ヲ定ム 七十七丁

外務省令 第二號 八月八日 朝鮮國在勤外務省巡查給與規則ヲ定ム 百丁

內務省令 第十五號 九月六日 郡區書記ノ旅費ハ團令第十四號內國旅費規則ニ據リ六等旅費ヲ支給スヘシ 百七丁

大藏省訓令 第四十三號 九月十三日 備員俸給支給方ノ儀ハ判任官ト權衡ヲ失ハサル様適宜ニ定メ届出ツヘシ 全丁

縣令 第三十號 九月二十九日 郡區書記戸長以下旅費額ヲ更正シ內國旅費規則ニ據リ支給スヘキ旨ヲ示ス 百八丁



警察

內務省令  
第十八號

九月二十七日  
警察官吏禮式ヲ定ム

百九丁

雜類

本縣  
第四十六號

九月三日  
書籍出版發賣ヲ止ム

大藏省  
第七十八號

九月四日  
起業公債證書發見

全  
第七十九號

九月四日  
全上盜難

全  
第八十號

九月六日  
全上發見

全  
第八十二號

九月七日  
金祿公債證書所在不分明

本縣  
第四十七號

九月八日  
書籍出版發賣ヲ止ム

大藏省  
第八十三號

九月九日  
東京金庫局大坂同出張所金庫九月十一日ヨリ開閉時

全  
第八十五號

九月十七日  
金祿公債證書所在不分明

全  
第八十六號

九月十八日  
同上發見

同  
第八十七號

九月二十一日  
同上發見

全  
第八十八號

九月二十二日  
東京金庫局大坂同出張所金庫十月一日ヨリ開閉時



法令類纂

閣令官制官規

○司法省告示第四號

明治十九年九月四日

今般勅令第六十二號ヲ以テ明治十六年(一月)第二號布告裁判所位置及管轄區畫表中  
改正相成候ニ付同年(同月)當省甲第一號告示治安裁判所管轄區郡分管表中左ノ邊  
加改正ス

一字都宮治安裁判所

上都賀郡ノ内

鹿沼宿、西鹿沼村、下府所村、玉田村、武子村、枳窪村、千渡村、富岡村、見野村、下  
遠部村、笹原田村、手岡村、小倉村、小代村、板橋宿、長畑村、明神村、今市宿、吉澤  
村、土澤村、千本木村、室瀬村、下ノ内村、野口村、七里村、所野村、山窪村、瀬川村、  
瀬尾村、北和泉村、平ヶ崎村、日光町、清瀧村、細尾村、久次良村、縦山村、上殿村、  
村井村、日光奈良部村、上野村、藤江村、大和田村、上奈良部村、下奈良部村、花岡



村、上石川村、下石川村、白藜田村、池之森村、茂呂村、深津村、板荷村、小水川村、加園村、上久我村、下久我村、下澤村、文挾宿、岩崎村、足尾村、引田村、上大久保村、下大久保村、草久村

一 栃本治安裁判所

上都賀郡ノ内

宇都宮治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

一 長岡治安裁判所

南蒲原郡ノ内

東本成寺村、西本成寺村、四日町村、新保村、曲淵村、西中村、諏訪新田、片口、五明村、西鱒田村、東鱒田村、金子新田、袋村、山崎新田、南入藏村、入藏新田、月岡村、長嶺村、吉田村、如法寺村、猪子場新田、福島新田村、東光寺村、安代村、若宮新田、一ッ屋敷新田、新堀村、萩島村、九之會根村、岩淵村、戸口村、茅原村、藏内村、前谷内村、山王村、小谷内村、帯織村、小瀧村、高安寺村、大面村、北瀧村、矢田村、吉野

屋村、鴨ヶ池村、芹山村、岡野新田、泉新田、貝喰新田、上坂井村、坂井新田、釋迦塚新田、鍋島村、尾崎村、尾崎新田、今井村、今井野新田、小古瀨村、小古瀨新田、中興野新田、千把野新田、善久寺村、渡前村、中會根新田、三林村、鬼木村下組、上鬼木村、下鬼木村、鬼木新田、六所村、西高山新田、中西村、赤沼村、小沼新田、大沼新田、西野新田、上沼新田、下沼新田、中條村、中條新田、真野代新田、野口村、真弓村、猫興野、中之島村、杉之森村、高畑村、横山村、灰島新田、中興野、大曲戸村、大曲戸新田、思川新田、押切新田、池ノ島村、坪根村、大保村、品之木村、關根村、龜ヶ谷新田、中野東村、中野中村、中野西村、島田村、狐興野、並木新田、宮内村、長呂村、鶴ヶ會根村、福原村、末寶村、松ヶ崎新田、大口村、丸山興野、安田興野、下關新田、横道新田、今町新田、指出村、櫻森村、田之尻村、梅田村、下鳥村、片桐村、芝野村、江向新田、上新田、柳橋新田村、福島村、反田村、加坪川新田村、傍所村、速水新田村、青木新田村、山吉村、葛卷村、北野新田村、鹿熊新田村、小栗山村、新瀧村、本所村、市野坪村、見附本町、見附新町、嶺崎村、中新保新田村、小長瀬新田村、山崎興野村、内



町村、戸代新田村、庄川村、島野窪村、石地村、杉澤村、庄川新田村、堀溝村

一新潟治安裁判所

南蒲原郡ノ内

長岡治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

○海軍省令第百五號 明治十九年九月七日

横須賀海軍港規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

横須賀海軍港規則

第一條 横須賀海軍港ニ入港シ或ハ入港セントスル艦船及ヒ該港沿岸居住ノ人民ハ

此規則ヲ遵守スヘシ

第二條 横須賀海軍港ハ左ノ圖面ノ如ク之ヲ三區ニ分チ其一線以内ヲ第一區トシ二

線以内ヲ第二區トシ三線以内ヲ第三區トス

第三條 艦船港内第二區ニ進入スルトキハ航海部長ノ指示ニ從ヒ其碇泊場所ヲ定ム

可シ而シテ航海部長ノ許可ナク其場所ヲ變ス可カラス又碇泊セシ艦船ト雖モ港内

ノ妨碍アリト認ムルトキハ退轉セシムルコトアルヘシ

第四條 艦船ハ左ニ記列スルモノヲ除クノ外航海部長ノ許可ナクシテ港内第一區ニ

進入ノ可カラス又許可ヲ得テ全區内ニ進入セシ艦船ノ進退ハ總テ航海部長ノ指示

ニ從フヘシ

但左ニ記列スルモノト雖モ碇泊又ハ着船ノ場所ハ總テ航海部長ノ指示ニ從フヘ

キモノトス

一 艦船附屬小漁船及ヒ端船

二 十五噸以下ノ海軍所屬船

三 鎮守府司令長官ノ許可ヲ得テ一定ノ場所ヨリ軍港内ヘ往復スル船

四 海軍ノ用品ヲ回漕スル雇船又ハ注文品ヲ積載スル商船及ヒ舢舨

第五條 港内第一區第二區ニ碇泊スル艦船ハ航海部長ノ許可ナクシテ諸浮標ニ繫留

スヘカラス

第六條 風波等ニテ端舟ノ往復シ能ハサルトキ避難ノ爲メ港内第二區ニ進入ノ艦船



ハ航海部長ノ指示ヲ待タズ錨地ヲ取ルコトヲ得然レトモ第一區ニ進入スルヲ許サス

第七條 火藥ダイナマイト等ノ如キ爆發物ヲ積載スル艦船ハ港内第一區ニ進入スルヲ許サス又火藥庫ヲ距ル百三十間(二百六十碼)以内ニ碇泊スルヲ許サス

但航海部長コ於テ無害ト認定スルモノハ此限コ在ラズ

第八條 小漁船ハ火藥庫ヲ距ル百三十間(二百六十碼)以内ニ接近ス可カラズ又舢舨漁船ハ全距離以内ニ於テ火ヲ焚クヘカラス

第九條 傳染病者アル艦船ハ港内第二區ニ進入スルコトヲ禁ス

但海港檢疫ノ爲メニ碇泊スル艦船ハ此限コ在ラズ

第十條 港内第三區中ハ艦船何レノ地位ニ碇泊スルモ隨意タルヘシト雖モ鎮守府司令長官コ於テ港内ノ妨碍アリト認ムルカ或ハ臨機必要ト認ムルトキハ其繫留場所

ヲ指示シ又ハ退轉ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 艦船ハ港内第二區第三區ニ於テハ禮砲又特ニ認可シタルモノ、外ハ砲銃

ノ發射ヲ禁シ第一區ニ於テハ總テ砲銃ヲ發スルコトヲ禁ス

第十二條 港内第一區第二區ニ於テ灰爐或ハ塵芥ヲ遺棄スヘカラス艦船ニ於テ其遺棄ニ供スル舢舨ハ造船所ニ請求スヘシ其他第三區内ト雖モ有害ト認ムル場所ハ遺棄ヲ禁シ臨時遺棄スルキ場所ヲ指示スルコトアルヘシ

第十三條 港内第一區ニ於テハ航海部長ノ許可ナクシテ漁業ヲ爲スヘカラス

第十四條 港内沿岸ノ土地ハ何區ヲ論ゼズ總テ鎮守府司令長官ノ許可ナクシテ其形ヲ變換シ又ハ棧橋波止場ヲ設ク可カラズ

第十五條 軍港内ト他港ト定期航海ノ營業ヲ爲サントスル者ハ地方廳ヲ經由シ鎮守府司令長官ノ許可ヲ請フヘシ右許可ヲ經ル者ト雖モ該長官ニ於テ有害又ハ危險ト

認ムルトキハ臨時港内ニ進入スルコトヲ停止スルコトアルヘシ

第十六條 海軍部外ノ者ニシテ此規則ニ従ハサル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

(圖面略)



備荒儲蓄

○告示第四十九號

明治十九年九月二十一日

備荒儲蓄粉無利子ヲ以テ左ノ通り貸下ルニ付望ノ者へ左ノ書式ノ願書右日割前郡區役所へ差出スヘシ

粉二百十三石二斗八升六合

仙臺區若林

全二千百二十八石九斗五升一合

全 鉄砲町

全二千六十二石七斗一升八合

名取郡増田驛

全千百六十石三斗七升九合

黒川郡今村

全五百六十六石三斗五合

栗原郡荒谷驛

全三百二十七石六斗九升八合

牡鹿郡石巻村

全二百二十二石八斗四升五合

志田郡三本木驛

右九月二十五日各藏場ニ於テ貸付ス

粉六百七十二石五斗四升

柴田郡大河原驛

全九百八十四石八合

加美郡中新田驛

全八百八石八斗三升九合

玉造郡岩出山驛

全千六百一石三斗四升八合

栗原郡宮野村

全四百八十二石一斗八升

亘理郡亘理驛

全九百五十一石五斗七升

登米郡淺水村

全千七百四十六石六斗七升四合

桃生郡鹿又村

右九月二十八日各藏場ニ於テ貸付ス

粉四百八十五石八斗四升三合

刈田郡白石本郷

全八百四十一石八斗九合

伊具郡角田本郷

全千七百四十九石九斗九升八合

遠田郡涌谷驛

全九百八十九石六斗二升一合

栗原郡大岡村

全千二十五石八斗七升七合

登米郡佐沼驛

全百八十九石三斗六升九合

本吉郡志津川驛



全千二百九十一石

右九月三十日各藏場ニ於テ貸付ス

粃四百石一斗九升七合

右十月二日藏場ニ於テ貸付ス

願書々式

備荒儲蓄粃拜借願

何郡村驛藏場儲蓄ノ内

一粃何石

但何公債証書又ハ地券狀抵當トシテ可差出候

右御貸下被成下度此段奉願候也

志田郡古川驛

本吉郡氣仙沼驛

何郡村

姓名 印

年号月日

### 貸借

○司法省令第二號 明治十九年八月卅日

今般法律第二號ヲ以テ公証人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通之ヲ定ム

#### 公証人規則施行條例

第一條 公証人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス

若シ公証人ノ員數不足ナルトハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置カサルコトアル可シ

第二條 公証人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ始審裁判

所ニ差出シ控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ

始審裁判所長及控訴院長ハ公証人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大

臣ニ送達スヘシ

司法大臣ニ於テ公証人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルキハ直チニ其住居ス可キ町

村ヲ指定ス

第三條 公証人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントス



ルキモ亦前條ノ手續ニ從フ可シ

第四條 公証人ノ役場ニハ公証人某役場ト記セル表札ヲ掲ク可シ  
役場ニハ成可倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲スヲ要ス  
書類ハ常ニ書箱ニ藏メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第五條 公証人規則ニ從ヒ試験ヲ受ケント欲スル者ハ試験願書ニ履歷書ヲ添ヘ試験  
期日ノ告示アリタルヨリ試験期日一箇月前マテニ試験ヲ行フ控訴院若クハ始審裁  
判所ニ差出ス可シ

試験願書及履歷書ニハ本籍區長若クハ戸長ノ奥書ヲ受ク可シ

第六條 試験ハ各所同時ニ之ヲ行フ者トス

第七條 試験委員ハ筆記試験ノ答案ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試験  
ヲ行フ可シ

筆記試験ニ合格セサル者ニ付テハ口述試験ヲ行ハス

第八條 試験問題答案ノ適否ハ試験委員ノ判斷ニ決スルモノトス

試験ノ結果ハ筆記口述二種ノ總點ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條 試験委員ハ口述試験ノ大畧及試験全體ノ結果ヲ記録ニ記載ス可シ

第十條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ

試験ヲ行フタル控訴院若クハ始審裁判所ハ試験及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者ノ住  
所族籍氏名年齢及ヒ及第ノ年月日ヲ登錄ス可シ

第十一條 試験委員ハ試験ニ關スル一切ノ書類ヲ其試験ヲ行フタル始審裁判所若ク  
ハ控訴院ノ長ニ差出ス可シ

始審裁判所ニ於テ試験ヲ行フタルキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ  
意見ヲ附シテ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ  
控訴院ニ於テ試験ヲ行フタルキハ前項ノ書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法大臣  
ニ差出ス可シ

第十二條 公証人タラント欲スル者ハ其願書ニ試験及第證書官記學位記卒業證書又  
ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保証スル證書ヲ添ヘ之ヲ差出ス可シ



試験及第証書ヲ要セサル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添フ可シ

第十三條 公証人願ヲ受タル始審裁判所ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條 公証人願書ヲ直ニ控訴院ニ差出タルハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條 公証人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條 司法大臣公証人ヲ任スルハ辭令書ヲ其公証人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及始審裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及始審裁判所ニ於テハ公証人名簿ヲ備置キ公証人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齢及任地ヲ記録ス可シ

第十七條 公証人ニ任セラレタル者ハ身元保証金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債証書若クハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所ニ納ム可シ

第十八條 公証人ノ納ム可キ身元保証金ノ額ハ左ノ如シ

東京及大阪

金五百圓

他ノ地方ニ於テハ

人口二十萬以上アル受持區

金四百圓

人口二十萬未満十萬以上アル受持區

金三百圓

人口十萬未満アル受持區

金二百圓

前項ノ金額ハ人口ニ増減アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ増減セズ

第十九條 公証人ハ身元保証金ヲ管轄始審裁判所ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ス

公証人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保証金ヲ完納セサルハ公証人規則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條 公証人ノ身元保証金ハ公証人規則第五章ニアル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノトス



第二十一條 過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保証金ノ全部又ハ一部ヲ減消シタルキハ管轄始審裁判所長ハ速ニ保証金ヲ補充スヘキ旨ヲ公証人ニ命ス可シ

公証人保証金ヲ補充フルマテ始審裁判所長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルヲ得

此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

公証人保証金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルキハ始審裁判所長ハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ

第二十二條 公証人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保証金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セシメ若シ餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條 公証人其職務ヲ罷タルキハ身元保証金ヲ還付ス可シ

第二十四條 公証人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルキハ管轄始審裁判所ハ控訴院ヲ經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルキモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條 公証人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ始審裁判所及控

訴院ハ其旨ヲ公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條 公證人規則ニ定メアル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及治罪法ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 公證人試験願書式履歷書式及公證人願書式ハ左ノ如シ

第一 公證人試験願書式

公證人試験願(料紙美濃紙)

族籍 戶主嗣子又ハ二  
三男兄弟ノ別

氏 名

年 齡

現住所

氏 名 印

年月日

私儀公證人試験相受度此段奉願候也

某控訴院長謹殿



又、某始審裁判所長誰殿

前書ノ通族籍年齡等相違無之候也

本籍

年月日

區長又、戶長印

第二 履歷書式

履歷書(料紙美濃紙)

族籍

氏名印

年齡

一 何年何月ヨリ何年何月迄(府縣)何某ニ就キ又、公私何學校何塾ニ於テ何學修業

一 何年何月何々(職業仕官進退賞罰等ニ關スル一切ノ件)

一 公証人規則第二十條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候

年月日

氏名印

前書ノ通相違無之候也

本籍

年月日

區長又、戶長印

第三 公證人願書式

公證人願(料紙美濃紙)

族籍 戶主嗣子又、二男兄弟ノ別

氏名

年齡

私儀何(府縣)何國某治安裁判所管下公證人受持區ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試驗及第證書(官記學位記卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也

現住所



年月日

氏名印

司法大臣誰殿

又

私儀何(府縣)何國某治安裁判所管下及何(府縣)何國某治安裁判所管下(某始審裁判所管下又、某控訴院管下)ノ内何レノ公證人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試驗及第證書(官記學位記卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也

前後ノ式ハ

前式ニ同シ

○告示第四十五號

明治十九年九月二日

目下山形秋田兩縣下虎列刺病流行ニ付兩縣ヨリ來ル旅人及荷物ニ對シ左ノ各所ニ於テ檢疫ヲ施行ス

刈田郡湯原村

柴田郡前川村

名取郡馬場村

宮城郡作並村

加美郡西小野田村

玉造郡鳴子村

○内務省告示第二十三号

明治十九年九月十一日

左ノ地方ヲ虎列刺病流行地ト認定ス

京都府下丹後國

左ノ地方ハ虎列刺病流行地ヲ解除ス

京都府下山城國丹波國

三重縣下伊勢國志摩國

○告示第四十八号

明治十九年九月十五日

山形秋田ノ兩縣ヨリ來ル旅人及荷物ニ對シ刈田郡湯原村外五ヶ所ノ外更ニ左ノ地ニ於テ檢疫ヲ施行ス

玉造郡鬼首村

○農商務省令第十一號

明治十九年九月十五日



獸類傳染病豫防規則左ノ通制定シ明治二十年一月一日ヨリ施行ス  
但明治九年(二月)内務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本  
規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

獸類傳染病豫防規則

第一條 此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ

- 一 牛疫
- 二 炭疽熱
- 三 鼻疽及皮疽
- 四 傳染性胸膜肺炎
- 五 傳染性鷺口瘡
- 六 羊痘

第二條 獸類傳染病ニ罹リタルトキ若クハ其症候ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理者  
ハ其患畜ト健畜トヲ隔離シ獸醫ヲシ患畜及之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムヘシ

第三條 獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルトキハ所有者又ハ管理者ト連署シ  
直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第四條 獸醫牛疫ト診斷シタルトキハ警察官吏及獸醫立會ノ上所有者又ハ管理者ニ  
於テ之ヲ撲殺スヘシ

第五條 第四條ノ場合ニ於テハ三人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格ヲ定メ所有者ニ  
左ノ手當金ヲ下付スヘシ

- 評價金貳拾五圓迄 手當金評價十分ノ四
- 評價金五拾圓マテ 全 十分ノ三
- 評價金百圓マテ 全 十分ノ二
- 評價金二百五十圓迄 全 十分ノ一
- 評價金五百圓マテ 全 十五分ノ一
- 評價金千圓マテ 全 二十五分ノ一

第六條 獸醫傳染病蔓延ノ兆候アリト認ムルキハ直ニ其旨ヲ警察署及戶長役場ニ届



出ツヘシ

第七條 第三條ノ届ヲ受ケタル戸長役場ニ於イテハ其旨ヲ患畜所在ノ近傍ヘ榜示スヘシ

第八條 傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルレキ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及戸長役場ニ届出ツヘシ

第九條 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其排泄物及之ニ觸レタル飼料褥草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニ於テ燒棄スルカ又ハ消毒法ヲ施シ深六尺以上ノ坑ヲ掘リテ埋没スヘシ

但埋没シタル場所ハ十二箇年ノ後ニアラサレハ發掘スルヲ得ス

第十條 傳染病畜及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其患畜ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フヘシ

第十一條 道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラサレハ轉移スルヲ許サス

第十二條 傳染病ノ流行ニ際シ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及斃牛馬化成ニ關スル營業ヲ停止スルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 第三條第六條第八條ノ届ヲ受ケタル戸長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直ニ所轄廳(警視廳北海道廳府縣廳ヲ云フ)ニ届出ツヘシ

第十四條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ管内ニ告示シ且近接ノ地方廳ニ報告スヘシ

但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直ニ其旨ヲ管内ニ告示スヘシ

第十五條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ届ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキ及管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報告ヲ得タルトキハ農商務大臣ノ允許ヲ得テ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出入往來ヲ停止スルヲ得



第十七條 牛疫蔓延ノ際ニ限リ其患畜ニ接近シタル牛ハ假令健康ノモノタリトモ警  
視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ農商務大臣ノ允許ヲ經タル後之ヲ撲殺セシム  
ルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金ノ全額ヲ下付スヘシ

第十八條 牛疫ヲ除クノ外傳染病蔓延ノ際ニ於テハ警視總監北海道廳長官府縣知事  
ハ農商務大臣ノ允許ヲ得タル後其患畜ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スヘシ

第十九條 此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓以上二十五圓以  
下ノ罰金ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラス

○農商務省告示第十八號 明治十九年九月十五日  
當省令第十一號獸類傳染病豫防規則ニ關スル心得ノ事項左ノ如シ

獸類傳染病豫防心得

- 第一項 獸類ノ狀態管理飼養ニ注意スルコト
- 第二項 獸類ノ身體畜舎器具等ヲ清潔ニスルコト
- 第三項 畜舎内ニ新鮮ノ大氣ヲ流通セシムルコト
- 第四項 畜舎内ノ溫度ヲ調和スルコト
- 第五項 飲水ノ清淨ヲ要スルコト
- 第六項 適度ノ運動ヲ爲サシムルコト
- 第七項 健畜ト傳染病畜トヲ隔離スルコト
- 第八項 傳染病流行地方ニ於テハ病性ニ從ヒテ獸類ヲ區別シ成ルヘク獸類ノ出入往  
來ヲ爲サシメサルコト
- 第九項 傳染病畜所在ノ入口ニハ其病名ヲ標示スルコト
- 第十項 傳染病流行地近傍ノ牧場ニ放牧セサルコト
- 第十一項 牧場ニ於テ傳染病發生シタルトキ直ニ其患畜ヲ適當ノ場所ニ圍ヒ置キ他  
ノ健畜ヲシテ之ニ接近セシメス又ハ放牧セサルコト



第十二項 傳染病流行ノ地方ニ於テハ獸類ノ市場屠場等ニ消毒法ヲ施スコト

第十三項 所有者又ハ管理者ヲ問ハス創傷潰瘍等アルモノハ患畜ニ觸接セサルコト

第十四項 傳染病流行ニ際シテ獸類發病シタルトキハ其何病タルヲ問ハス獸醫ナシテ速ニ之ヲ診察セシムルコト

第十五項 傳染病流行ノ際ハ一層排水法ヲ怠ラサルコト

第十六項 牛疫若クハ傳染性胸膜肺炎ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル死體、葶草、糞尿及其他ノ廢棄物等ヲ運搬スルコハ牛ヲ用フヘカラサルコト

第十七項 獸類炭疽熱ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル死體、葶草、糞尿其他ノ廢棄物等ヲ運搬スルコハ牛馬ヲ用フヘカラサルコト

第十八項 鼻疽及皮疽流行ノ際ハ馬匹ヲ交尾セシメント欲セハ必ス獸醫ノ診察ヲ受クヘキコト

第十九項 鼻疽及皮疽ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル死體、葶草、糞尿及其他ノ廢棄物ヲ運搬スルコハ馬ヲ用フヘカラサルコト

第二十項 傳染病畜アル舍内及牧場ニ於テハ獸醫又ハ看護者ノ外ハ濫ニ患畜ニ接近セシメサルコト

第二十一項 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル獸類ノ死體、排泄物ハ勿論之ニ使用シタル飼料、葶草等ハ悉ク燒棄ツルコト

第二十二項 患畜ヲ撲殺場又ハ埋瘞場ニ移スノ途中他畜ノ近接ヲ避ケ且血液其他ノ排泄物ヲ遺脱セサルコト

第二十三項 糞尿ハ勿論其他汚穢物ハ總テ傳染病ノ媒介トナルモノナレハ務メテ之ヲ除去スルコト

第二十四項 傳染病流行地方ノ犬、猫、鶏、鵞等ハ飼主ニ於テ放飼セサルコト

第二十五項 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル獸類ノ死體、排泄物ハ勿論其他該畜ノ爲メニ使用シタル畜舍、欄庭、貨車糞窠、塵溜、器具等ニハ消毒法ヲ施スコト

第二十六項 傳染病畜ノ看護者ハ勿論其患畜ニ觸レタルモノニハ消毒法ヲ施スコト

第二十七項 患畜舍ハ熱湯或ハ灰汁ヲ以テ洗ヒ石灰水或ハ粗製石炭酸水ヲ灌キ窓戶



ヲ密閉シテ亞硫酸瓦斯ノ蒸蒸法ヲ施シテ窓戸ヲ開放シ大氣ヲ通シ日光ニ曝ス  
第二十八項 患畜ノ糞ハ燒棄テ或ハ消毒藥ヲ濯キテ深ク地中ニ埋メ尿管ニハ石灰ヲ  
撒布スルコト

第二十九項 患畜ニ觸レタル飼槽、芻架、被覆(獸類ニ用ヒタルモノ)及其他ノ器具ハ  
燒棄ツルヲ良トス但鐵製ノ器具ハ火熱ヲ加ヘタル後用フルモ妨ナキコト

第三十項 患畜若シハ死體ヲ取扱ヒ又ハ消毒法施行ニ從事セシ者ニシテ止ムコトヲ  
得ス他行スヘキ場合ニ於テハ其身ニ消毒法ヲ施シタル後ニアラサレハ他行セサル  
コト

第三十一項 患畜若クハ死體ヲ取扱ヒ又ハ消毒法施行ニ從事セシ者ノ衣服ハ成ルヘ  
ク燒棄ツルヲ良トス否サレハ其衣服ヲ石鹼水ニテ洗ヒ亞硫酸瓦斯ノ蒸蒸法ヲ施シ  
十二時乃至二十時間消毒シテ充分大氣ニ曝スコト

第三十二項 患畜或ハ排泄物等ニ觸レタル者ノ草鞋木履等ハ燒棄テ靴ハ石灰水ニテ  
洗ヒ之ニ獸脂ヲ塗リテ大氣ニ曝スコト

第三十三項 消毒藥ハ其類多シト雖モ左ニ普通ノモノヲ舉ク

第一 濃厚石炭酸水(廿五倍乃至五十倍)

畜舎器具、死體、排泄物、糞窖塵溜等ニ施用ス

第二 稀薄石炭酸水(六十倍乃至百倍)

畜舎、欄庭、貨車、看護者ノ衣服又ハ洗手等ニ施用ス

第三 石灰水

畜舎ノ壁床、飼槽芻架其他木製ノ器具等ニ施用ス

第四 石灰

畜舎、糞窖、死體等ニ施用ス

第五 亞硫酸瓦斯(硫黃ヲ燒キ發散シタル瓦斯)

畜舎内器具等ヲ薰蒸スルニ施用ス

第三十四項 獸類ノ傳染病名及其症候ハ左ノ如シ

第一 牛疫



學語	ペストス	ボヴィナ
英國語	Cattle	Plague
佛國語	Peste	Bovine
獨國語	Rinder Pest	

牛疫ハ牛族特異ノ熱性傳染病ニシテ體中各部ノ粘膜ヲ侵シ就中消化器粘膜ニ特異ノ炎症ヲ呈シ牛族ヨリ他ノ反芻獸ニ傳染スルモノナリ此病ハ害毒ノ慘劇ナル傳播ノ迅速ナル斃死ノ夥多ナル獸類傳染病中最モ危險ノ症ナリトス

牛ノ此病ニ罹ルトキハ熱ヲ催スヲ以テ初起ノ症候トス即體温少ク増昇シ泌乳食慾共ニ減少シ倦怠シテ頭ヲ垂レ一二日ヲ經レハ加答兒ノ症候ヲ呈シ各部ノ粘膜特ニ紅ヲ潮シ反嚼休止シ眼鼻口ヨリ液ヲ漏泄シ濕咳ヲ發シ漸々呼吸ノ數ヲ増シ三日乃至四日ヲ經過スレハ赤痢様ノ下痢ヲ起ス口腔及陰腔ノ粘膜腫起シテ其面ニ粟粒大乃至豌豆大ノ黯白色ノ小點ヲ發シ乾酪様ノ滲出物之ヲ聚フ此乾酪様ノ質ハ容易ニ剝脫シテ爛斑ヲ現シ其他粘膜ニ赤色ノ線狀若クハ斑點ヲ見ルコトア

リ以上ノ症候漸次亢進スルニ從ヒ眼鼻口ノ分泌液愈増加シ呼吸益困難ヲ加ヘ下痢甚シク終ニ虚脱シテ斃ル

第二 炭疽熱

學語	アントラクシス
英國語	Anthrax
佛國語	Charbon
獨國語	Milzbrand

炭疽熱ハ急性傳染病ニシテ瘴氣毒ヨリ起リ草食獸ニ發シ又他ノ畜類及人ニ傳染ス

此病ハ俄然發スルモノ多ク其急性ナルハ動物頓ニ卒倒シテ掣搐シ五分乃至十分時間ニシテ斃ル又途中若クハ夜間ニ發病シ鼻、口、及肛門ヨリ血液ヲ漏シテ斃ル、モノアリ或ハ初起食慾、泌乳共ニ減少シ體温増昇シ外部ノ温度定マラス戰慄ヲ發シ各部ノ粘膜甚シク紅ヲ潮シ若クハ帶黃色ヲ呈シ糞ニ血液及粘液ヲ混シ呼



吸疾促、脈搏増進、大ニ狂亂苦悶シ往々痲痛ヲ併發シ或ハ痲鈍トナリ或ハ感覺ヲ失フ斯ノ如キ場合ニ於テハ一般ニ熱勢亢進シテ衰弱ヲ加ヘ鼻口及肛門ヨリ血液ヲ漏泄シテ終ニ斃ル稀ニハ快復スル者モアリ或ハ熱度増進シ皮膚ニ一箇若クハ數箇ノ腫瘍ヲ發ス其狀圓クシテ凸隆シ熱痛ヲ帶ルモ忽チ減退ス試ミニ之ヲ壓スレハ氣音ヲ發シ之ヲ截開スレハ帶黃色ノ液ヲ漏ス或ハ舌、咽喉若クハ肛門ニモ亦之ヲ發スルコトアリ

第三 鼻疽及皮疽

- 學語 Mallens Humidus et Farcim inosus
- 英國語 Glanders and Farcy
- 佛國語 Morve et Farcim
- 獨國語 Rotz und Wurm

鼻疽及皮疽ハ馬族特異ノ傳染病ニシテ二者同性ノ症ナレトモ其患部テ異ニシ互ニ誘發スルモノナリ即鼻疽ハ專ラ鼻粘膜肺及水脈系ヲ侵シ皮疽ハ皮膚皮下結締

織及水脈系ヲ襲フモノニシテ此病ハ人、羊、山羊、兔及其他ノ畜類ニ傳染ス鼻疽ノ主徴ニ三アリ(其一)鼻ノ二孔若クハ兩口ヨリ少量ノ粘稠液ヲ漏泄ス其液ハ一種特異ノ膿樣液ニシテ其狀宛モ菜種油ニ蛋白ヲ混シタルカ如シ(其二)顎下水脈腺腫脹ヲ發シ概チ下顎骨ノ内側ニ固着シテ膿膿セス(其三)鼻粘膜ニ惡性潰瘍ヲ生ス當初ニ在テハ帶黃色ノ小膿疹若クハ小結節ナルモ増大破爛シテ潰瘍ニ變ス其瘍底ハ凹陷シテ豕脂狀ヲ呈シ少量ノ惡性膿ヲ漏ス病勢亢進スルニ從ヒ管ニ鼻粘膜ヲ侵スノミナラズ咽喉、肺、氣管支、喉嚨及ヒ頭ノ諸骨ニ波及シテ各其症候ヲ呈ス末期ニ至レハ呼吸困難ヲ加ヘ咳嗽頻發皮膚粗剛、毛色光澤ヲ失ヒ全身漸ク羸弱ス

皮疽ハ皮膚ニ局限シテ多ク四肢頭、頸、胸、腹或ハ其他ノ部位ノ皮下ニ豌豆大乃至胡桃大ノ結節ヲ發生シ初ハ硬固ニシテ且疼痛アリ然レハ漸次其結節ノ中心ヨリ破潰シ黃色ノ液ヲ漏泄シ皮上ニ凝着シテ痂ヲ結ヒ而シテ其瘍面ヨリ絶ヘズ膿汁ヲ漏泄ス病勢亢進スレハ腫瘍累發シテ體ノ諸部ヲ侵シ終ニ潰爛シテ血液ヲ漏



スコトアリ其他各潰瘍ニ連絡セル水脈管ハ腫起シテ索狀ヲ呈シ水脈腺亦腫脹ス而シテ久キヲ經レハ大ニ羸弱シテ遂ニ斃ル

第四 傳染性胸膜肺炎

學語

Peripneumonia Contagiosa

英國語

Contagious Pleuro-Pneumonia

佛國語

Peripneumonie Contagieuse

獨國語

Lungen Seuche

傳染性胸膜肺炎ハ牛族特異ノ熱性傳染病ニシテ概テ左肺ノ一葉ヲ侵シ其小葉間質ノ滲出炎ヲ發シ尋イテ胸膜炎ヲ續發ス

此病ノ徵候ヲ大別シテ二期トス即第一期ハ短渴ノ咳嗽ヲ發シ漸々其數ヲ増シ濕聲ノ痛咳頻發シテ體温亢進シ呼吸疾促、食慾、泌乳共ニ減少シテ病勢増進ス第二期ニ至レハ熱勢大ニ亢進シ胸膜肺炎ノ諸徵尤明瞭トナリ鼻端乾燥シ耳角ノ冷熱定マラス食慾反嚙泌乳共ニ休止シ通便秘澁前肢ヲ開張シテ起立シ臥スコトヲ欲

セス鼻孔開豁シ腺部ノ波動甚シク呼吸スル毎ニ呻吟ス試ミコ背腰、及肋間部ヲ歴スレハ苦悶ヲ訴ヘ病久キヲ經レハ呼吸益困難ヲ加ヘ倦怠羸瘦甚シク下痢ヲ發シ呼吸臭ヲ帶ヒ漸次虛脱シテ斃ル

第五 傳染性齙口瘡

學語

Aphthis Contagiosa

英國語

Foot and Mouth disease

佛國語

Stomatite Aphthense

獨國語

Maul und Klauenseuche

傳染性齙口瘡ハ瘴氣性發疹傳染病ニシテ雙蹄獸ニ發シ熱ヲ帶ヒテ口内趾端或ハ乳房等ニ水泡ヲ局發ス

此病ニ罹ルトキハ初メ發熱シ食慾反嚙共ニ減少或ハ休止シ口内、趾端乳房或ハ鼻端等ニ忽チ大小許多ノ水泡ヲ發ス該泡破潰スレハ初メ澄液ヲ漏シ後ニ至レハ渾濁シ膿様ノ液ニ變ス或ハ口内ニ水泡ノ發スルトキハ其粘膜剝脱シテ紅色ノ爛



斑ヲ呈シ頻ニ唾液ヲ漏ス而シテ蹄間或ハ蹄冠部ヲ侵シ甚シキニ至ラハ跛趁トナ  
ル此病ノ經過ハ概テ二週間許トス

第六 羊痘

學語 Varialo Ovinna

英國語 Sheep Pox

佛國語 Clavelle

獨國語 Schaf Pocken

羊痘ハ熱性發疹傳染病ニシテ皮膚ニ痘ヲ發生シ羊族ニ蔓延シテ大ニ猖獗ヲ極メ  
獸類痘瘡中最危險ナルモノナリ

此病ハ初メ發熱シテ不安ノ狀ヲ呈シ食慾反嚼共ニ減少シ體毛ノ稀疎ナル局部即  
顔面或ハ肢脚ノ内面ニ紅斑ヲ呈シ豆大ノ痘ヲ發生シ二三日ヲ經レハ痘中ニ淋巴  
液ヲ釀成シ後膿化シ終ニ破爛シテ乾涸結痂シ二三週間許ニシテ脱落ス

○告示第五十號 明治十九年九月廿一日

宮城郡塩釜村ニ於テ虎列刺病發生蔓延ノ兆アルニ付此際旅人ハ勿論貨物ニ至ルマテ  
同所ヲ經過セス便宜他道ヲ往復運輸スヘシ

○告示第五十一號 明治十九年九月廿一日  
管下宮城郡塩釜村ニ發生シタル虎列刺病追々蔓延猖獗ノ勢有之ニ付該村ト各地トノ  
交通ヲ遮斷ス

學制

○縣令第十八號 明治十九年九月廿一日

學校幼稚園書籍館設置變更廢止規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

學校幼稚園書籍館設置變更廢止規程

第一條 町村立小學校ヲ設置セントスルキハ戶長ハ等科ヲ定メ左ノ事項ヲ取調知事  
ノ認可ヲ受クヘシ

第一項



設置ノ目的(町村立小學校ハ除ク)

第二項

位置(町村立小學校ハ除ク)

第三項

名稱

第四項

組合町村并戸數人口(町村立小學校ハ除ク)

第五項

經費ノ収支及其細目

第六項

資産(土地建物金穀等)

第七項

校舎敷地

第八項

書籍器械

第九項

生徒數(男女)別

第十項

教員數

第十一項

校則教則教科用圖書(町村立小學校ハ除ク)

第十二項

法ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十三項

會ノ決議ヲ取リ第一條ノ各項ニ準シ取調知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十四項

町村立學校(小學校ヲ除ク)幼稚園書籍館ヲ變更廢止セントスルハ戸長ハ



町村會ノ決議ヲ取リ其事由及資産處分ノ方法ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ  
第五條 私立學校幼稚園書籍館ヲ設置又ハ變更セントスルキハ第一條ノ各項ニ準シ

取調知事ノ認可ヲ受クヘシ其廢止ニ係ルモノハ知事ニ上申スヘシ

○縣令第十九號 明治十九年九月廿一日

町村立小學校資産管理規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

町村立小學校資産管理規程

- 第一條 町村立小學校ニ屬スル資産ハ(區)戸長之ヲ管理スヘシ
- 第二條 小學校ノ資産ハ質入書入ヲ爲シ又ハ他途ニ支消スルヲ得ス
- 第三條 小學校ニ屬スル田、畑、山林、原野、荒蕪地、池、沼、家屋等ノ不動産及動産ヲ賣買貸附寄托セントスルキ若クハ保管小作セシメントスルキハ其狀ヲ具シ該證書草案ヲ添ヘ區長ハ知事戸長ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ  
但驛遞局貯金預ケ所ニ寄托スルキハ其旨届出ヘシ
- 第四條 不動産ヲ貸附スルカ又ハ保管小作等セシムルキハ相應ノ財産ヲ有スル保證

人三名ヲ要ス

但保證人ハ其區町村内居住ノ戸主ニ限ル

第五條 金穀公債證書株券等ノ動産ヲ貸附セントスルトキハ確實ナル抵當及相應ノ財産ヲ有スル辨償人二名ヲ要ス

但辨償人ハ其區町村内居住ノ戸主ニ限ル

第六條 前各條貸附寄托保管小作等ノ期限ハ不動産ハ五ク年以内動産ハ一ク年以内トス

第七條 資産調及其収利ノ收入支出ハ每三ヶ月知事ニ報告スヘシ

第八條 小學校ニ屬スル不用ノ物品ヲ賣却スルトキハ區長ハ知事ノ戸長ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 小學校ノ資産トシテ動産不動産ヲ寄附スルモノアルトキハ金穀物品等ノ員數及價格年月日族籍氏名ヲ帳簿ニ記シ領收證書ヲ交附スヘシ

第十條 資産管理者ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ



一 何小學校資產臺帳

一 全 資產貸附簿

一 全 資產出納簿

一 全 (收入支出)内譯簿

一 全 備品明細簿

一 全 寄附(金穀物品)受領簿

○縣令第二十号

明治十九年九月廿一日

町村立小學校經費ノ收入支出方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

町村立小學校經費收入支出方法

第一條 町村立小學校經費收入支出ノ豫算ハ第一號第二號書式ニヨリ區戸長之レヲ調製シテ毎年(十月)知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 町村立小學校授業料ノ徵收手續及其期日ハ區戸長之ヲ定メ其小學校長之レヲ徵收スヘシ

第三條 授業料ハ米麥薪炭等ヲ以テ徵收スルヲ得

第四條 小學校設置區域外ヨリ入學スル生徒ノ授業料ハ成規ノ範圍内ニ於テ増額徵收スルヲ得

第五條 小學校ニ於テ全一ヶ月授業ヲ受ケサル生徒ハ其月ノ授業料ヲ徵收セサルヘシ

第六條 授業料ハ父母後見人ノ望ニヨリ數ヶ月分前收スルヲ得

第七條 既納ノ授業料ハ轉校退校等ノ事故アルモ返附セサルヘシ

第八條 小學校ノ經費ニ寄附スル金穀物品ハ縣令第十九号町村立小學校資產管理規程第九條ニ準シ處理スヘシ

第九條 小學校經費ノ支出手續ハ區戸長之レヲ定メ其小學校長之レヲ處辨スヘシ  
第十條 小學校經費收入支出ノ精算ハ第三號書式ニ依リ區戸長之レヲ製シ毎年五月知事ニ報告スヘシ

第十一條 區戸長ハ小學校經費ニ關スル左ノ帳簿ヲ備フヘシ



一 小學校經費出納簿

一 全 (收入支出) 内譯簿

一 全 補助費受拂簿

一 小學校簡易科經費内譯簿

一 寄附金穀物品受領簿

第一號書式

明治何年度何郡區(何高等)(尋常)小學校何小學校簡易科(經費支出豫算

前々年度實費金

前年度豫算金

一金何程

比較

○金何程

(増減ノ理由ヲ摘記スヘシ)

○前年度ヨリ増減

俸給

内

金何程

校長俸給

金何程

教員俸給

月俸何圓何人何ヶ月ノ目安

以下之ニ準ス

右之通支出豫算取調候條御認可相成度收入豫算調相添此段上申候也

年月日

何郡區何町村(區)戸長 何 誰 印

宮城縣知事何誰殿

第二號書式

明治何年度何郡區(何高等)(尋常)小學校何小學校簡易科(經費收入豫算

一金何程

收入豫算總額

内

金何程

授業料



但生徒一人平均一ヶ月金何程何月分

資産収利

寄附金

補助金

全

全

全

第三号書式

明治何年度何郡區(何高等)(尋常)小學校何小學簡易科(經費精算報告)

○豫算金何程

一金何程

内譯

○金何程

金何程

内

金何程

俸給

校長俸給

金何程

教員俸給

○金何程

金何程

内

金何程

雇給

以下之準ス

右精算報告候也

何郡區何町村(區)戸長 何ノ誰 印

宮城縣知事何誰殿

○縣令第二十一號

明治十九年九月廿二日

小學簡易科教則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學簡易科教則

第一條 小學簡易科ノ修業年限ヲ三ヶ年トス



第二條 小學簡易科ノ學科ハ讀書、作文、習字、算術トス

第三條 小學簡易科ニ於テハ兒童ノ數百廿人以下ハ教員一人ニテ教授スルコトヲ得

第四條 小學簡易科ニ於テ教員二人ヲ置クハ二學級ヲ設クヘシ但生徒六十八以下

ナルキハ學級ヲ分ツテ得ス

第五條 毎日授業時間三時トシ一ケ年内ニ三十週ヲ下ルヘカラス

第六條 大祭日、祝日ハ休業スヘシ

第七條 各學科ノ每週授業時間左ノ如シ

讀書 四時

作文 二時

習字 三時

算術 九時

第八條 各學科ノ程度左ノ如シ

讀書 假名、假名單語、單句、簡易ナル漢字交リノ短句及ヒ漢字交リ文

作文 假名ノ單語、單句、簡易ナル日用文

習字 假名、日用文字、口上書類、及ヒ日用書類、(行書)

算術 珠算ヲ用テ加法、減法、乘法、除法、普通ノ度量衡、貨幣、日用適切ノ雜題及ヒ

暗算

○縣令第廿二號

明治十九年九月廿二日

小學科中土地ノ情況ニ據リ圖畫英語農業商業手工ヲ加フルトキハ左ノ要項ニ依ルヘ

圖畫 諸線及日用器具、通常動植物類

英語 英語ハ日用普通ノ專柄ヲ教フルヲ以テ主眼トシ發音綴字、譯解、習字、書取、會

話及ヒ綴文トス

農業 農業ハ農具及ヒ肥料ノ使用法、土質、培養法、疏水法、禾穀、蔬菜等ノ耕作、養蠶

培養、家畜魚鳥ノ飼養、及ヒ農家ノ經濟ニ關スル事柄

商業 商業ハ其地方日用物品ノ種類、產地、配地等ヨリ商家ノ心得、簿記、保險、爲換、



證書、切手、印紙、郵便、電信、陸運、水運、貨幣、手形等ノ概略ヲ知ラシメ兼テテ  
商業上實地ノ取リ引キ

手工 手工ノ鋸、鉋、鑿等ノ日常器械ノ使用法ヨリ其地方製品ノ構造法及ヒ實地製作

○縣令第二十三號 明治十九年九月廿二日

小學校教員學力檢定試驗細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教員學力檢定試驗細則

第一條 試驗ハ四月十月第一水曜日ヨリ施行スルモノトス

但時宜ニ依リ臨時施行スルコトアルヘシ

第二條 試驗志願ノ者ハ左ノ書式ニ據リ縣廳ヘ願出ツヘシ

學力檢定試驗願書

某儀小學校教員(某科)志願ニ付別紙履歷書ヲ添ヘ相願候也

本籍族戸主或ハ何某何男女

年月日

姓名印

何年何月生

宮城縣知事何某殿

前書肩書年齡相違無之候也

戸長 何某 印

履歷書

一學業

一職業

一賞罰

右之通

年月日

何某 印

第三條 試驗志願者ハ手数料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

○縣令第二十四號 明治十九年九月廿二日

小學簡易科教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ



小學簡易科教員免許規則

第一條 小學簡易科教員免許狀ハ丁年以上ニシテ左ノ學科試験ノ上及第ノ者ニ授與

スルモノトス

修身 修身ノ要旨

讀書 假名交リ文、漢文

作文 書體文、假名交リ文(記事說)

習字 楷書、行書、草書(細字)

算術 (珠算筆算)加法(速算)減法、乘法、除法、度量、衡、貨幣、日用雜題

圖畫 簡易ナル自在畫

地理 總論、日本地理、外國地理ノ概略

動物大意

植物大意

理科 物理大意

同

化學大意

歷史 日本歷史

教育學 德育、智育、體育ノ大意實地授業法

第二條 各科ノ試験點數ヲ百點ト定メ六十點以上ノモノヲ及第トシ以下ヲ落第トス

第三條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セズ又既ニ授與シタル

モノト雖之ヲ沒收スヘシ

一 新法ニヨリ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シ

テ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシ

テ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一 身代限リノ處分ヲ受ケ未辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一 荒酷暴激等總ヘテ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ



一舊法ニ依リ懲役若クハ禁獄若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ  
但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス  
一前項ノ刑ニ處セラレ在留養親、老小、癱疾、婦女、等ノ故テ以テ收贖ヲ聽サレタル  
モノ

第四條 免許狀書式左ノ如シ

但此免許狀ヲ有スルモノハ小學校授業生タルコトヲ得

免許狀	族籍
姓	名
何年何月生	
右ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日マテ三 ケ年間小學簡易科教員タルコトヲ免許ス	
年 月 日	
番号	

宮城縣知事位勳爵姓名印

第五條 免許狀ハ三ケ年ヲ以テ一期トス期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニヨリ適任ノモノト  
認ムルトキハ更ニ免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ  
第六條 二期以上勤続ノ者ニシテ學術授業トモ超衆ノモノニハ無期免許狀ヲ授與ス  
ルコトアルヘシ

第七條 試驗志願者ハ左ノ書式ニヨリテ縣廳ヘ願ヒ出ツヘシ  
試驗願書

某儀小學簡易科教員志願ニ付キ別紙履歷書ヲ添ヘ相願候也  
本籍族戸主或ハ何某何男女

年月日  
姓名 印  
何年何月生

前書肩書年齢相違無之候也

戸長 印

宮城縣知事何某殿



履歷書

- 一 學業
- 一 職業
- 一 賞罰
- 右之通

年月日

姓名 印

第八條 試験ハ四月十月第一水曜日ヨリ施行スルモノトス

但時宜ニヨリ臨時施行スルコトアルヘシ

第九條 試験ヲ願ヒ出ツル者ハ手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ

○縣令第二十五號 明治十九年九月廿二日

小學校授業生免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校授業生免許規則

第一條 小學校授業生免許狀ハ十六年以上ニシテ左ノ學科試験ノ上及第ノ者ニ授與

ナルモノトス

修身 修身ノ要旨

讀書 假名交リ文、簡易ナル漢文

作文 書牘文、假名交リ文

習字 楷書、行書、草書(細字)

算術 (珠算筆算) 加法、(速算) 減法、乘法、除法、度量、衡、貨幣、日用雜題

圖畫 簡易ナル自在畫

地理 總論、日本地理

動物大意

植物大意

物理大意

化學大意

歴史 日本歴史ノ概略



教育 授業法

第二條 小學校授業生免許狀ハ有期無期ノ二種トス

第三條 有期免許狀ハ郡區長ヨリ授與シ其郡區限リ有効ノモノトス

第四條 無期免許狀ハ縣知事ヨリ授與シ管内ニ有効ノモノトス

第五條 各科ノ試験點數ヲ百點ト定メ六十點以上ノモノヲ及第トシ以下ヲ落第トス

第六條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタル

モノト雖之ヲ沒収スルシ

一新法ヨリ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシ

シテ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一身代限リノ處分ヲ受ケ未辨償之義務ヲ終ヘサルモノ

一荒酬暴激等總ヘテ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一舊法ニ依リ懲役若クハ禁獄若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ

但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

一前項ノ刑ニ處セラレ存留養親、老小、癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ

第七條 免許狀ノ書式左ノ如シ

番号	年 月 日	郡區長 姓名 印
	何年何月生	
	族 籍	
	姓 名	
	右ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日マテ三ケ年間小學簡易科教員タルコトヲ免許ス	
	免許狀	



第八條 免許狀ハ三年キ以テ一期トス期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニヨリ適任ノモノト認ムルトキハ更ニ免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第九條 二期以上勤續ノ者ニシテ學術授業トモ超衆ノモノニハ無期免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十條 試験志願者ハ左ノ書式ニヨリテ郡區役所ヘ願ヒ出ツヘシ  
試験願書

某儀小學校授業生教員志願ニツキ別紙履歷書相添ヘ相願候也

本籍族戸主或ハ何某何男女

年月日 姓名 印

何年何月生

前書肩書年齢相違無之候也

戸長 印

郡區長何某殿

履歷書

一學業

一職業

一賞罰

右ノ通

年月日 姓名 印

第十一條 試験ハ毎年凡ソ二回施行スルモノトス其期日ハ郡區長ノ定ムル所ニ據ルヘシ

第十二條 試験ヲ願ヒ出ツル者ハ手数料トシテ金三拾錢ヲ納ムヘシ

○縣令第二十七號 明治十九年九月廿五日  
學齡兒童就學規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

學齡兒童就學規則

第一條 凡ソ兒童學齡ニ入ルキハ兒童ノ氏名住所族籍生年月日及就學セシムヘキ小



學校ヲ豫定シテ其父母後見人ヨリ一ヶ月前ニ兒童現住地ノ戸長ニ届出戸長ハ其旨  
學校長ニ通報スヘシ

第二條 前條ノ學齡コ入リタル兒童ニシテ就學セシムルコト能ハサル事故アルキハ  
父母後見人ハ兒童ノ氏名族籍生年月日及其事由ヲ兒童現住地ノ戸長ニ申出戸長ハ  
之ヲ審査シ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 尋常小學校ヲ卒業サル學齡兒童ノ他町村ニ轉住スルキハ父母後見人ヨリ其  
旨ヲ兒童現住地ノ戸長ニ届出ツヘシ

第四條 凡ソ學齡兒童ニシテ小學校ノ卒業證書ヲ有セサル者ハ第一條第二條第三條  
ニ據ルヘシ

### 郵便

○遞信省告示第八十四号 明治十九年九月七日

萬國郵便聯合條約里斯本府追加書第九條乙ニ據リパラガイ國(paraguay)ノ別配達郵

便物ヲ交換ス

但全國宛ノ分ハ其首府アソンプション(Assumption)ニ限ルヘシ

暹羅國(Siam)ニ於テハ郵便局現存ノ地方ニ限リ別配達郵便ヲ施行ス

### 燈台

○遞信省告示第八十三號 明治十九年九月二日

本年當省令第十九號船燈信號器製造販賣規則中發火信號器ニ關スル事務ハ東京府下  
ニ限リ警視廳ノ主管ニ屬ス

### 農工商

○農商務省令第十號 明治十九年九月七日

明治十七年第十三號布達商標登錄願手續第二條第五條第七條ノ手数料及同十八年第  
五號布達專賣特許手續第二條第七條第十一條ノ免許料ハ出願ノ日ヨリ三日以内ニ納



ムヘキコトニ改正ス

○農商務省告示第十七號 明治十九年九月七日

明治十八年當省第六號告示專賣特許ニ關スル諸願書式中依テ御免許料金何山相添ノ十一字ヲ刪除ス

○縣令第十六號 明治十九年九月十一日

明治十七年(十二月)甲第九十四號布達漁業取締規則中第二條第三項ヲ更正シ第五條ヲ削除シ第六條ヲ第五條トナス

一 鮑

九月一日ヨリ十一月三十日マテ

一 海鼠

九月一日ヨリ十二月卅一日マテ

○縣令第二十六號 明治十九年九月廿二日

本年(六月)甲第四十号布達印紙賣捌所位置并員數ノ外更ニ左ノ箇所ヲ増置ス

仙臺區 木町通一ヶ所 連坊小路一ヶ所 南六十八町一ヶ所 土樋二ヶ所

北目町一ヶ所

伊具郡 佐倉村一ヶ所

黒川郡 大衡村一ヶ所

### 銀行

○大藏省令第二十八號 明治十九年九月二日

日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ贋造及描改ニ係ル分取扱方ノ儀ハ渾テ明治九年(四月)第五十七号布告贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則及同年(五月)當省甲第十二号布達ニ準據スヘシ

但第五十七號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店へ引換ヲ請フヘシ

○大藏省訓令第四十二號 明治十九年九月二日

北海道廳 府縣



當省令第二十八號廢造及措改ニ係ル兌換銀行券取扱方ノ儀ハ尙ホ明治十四年(十一月)當省乙第四十號達ニ準據スヘシ

國稅

○縣令第二十八号 明治十九年九月廿八日

大藏省令第二十七号ニ據リ自家用料酒製造者ハ免許届書式並ニ標札書式左ノ通之ヲ定ム

免許届書式

自家用料酒製造御届

一何酒製成高何斗何升

右ハ明治何年度一期自家用料酒製造仕候間免許鑑札御渡被下度候也

郡區町村番地

年月日

姓名印

數名連署スルモ妨ケナシ

郡區長宛

右相違無之候也

戶長姓名印

標札書式(寸法豎一尺横三寸五分)

明治何年度自家用料

何酒何斗何升 製造

郡區町村番地

姓名

地方稅

○縣令第十三號

明治十九年九月四日

明治十九年度地方稅収支豫算追加縣會ノ決議ヲ經左ノ通之ヲ定ム



一金千七圓拾貳錢貳厘

縣會議諸費

一金貳千貳百五拾圓四錢八厘

衛生及病院費

一金七千百貳拾圓四錢五厘

教育費

宮城師範學校費

計金壹萬四百七拾七圓貳拾壹錢五厘

一金壹萬四百七拾七圓貳拾壹錢五厘

戶數割

但總戶數九萬九千七百八十三戶  
一戶金拾錢五厘

○縣令第十四號

明治十九年九月四日

明治十九年度地方稅豫算追加戶數割ハ本年七月一日現在ノ戶數ニ均賦ス

○縣令第十五號

明治十九年九月七日

臨時急施ヲ要スルカ爲メ常置委員會ノ決議ヲ取リ明治十九年度地方稅收支豫算中衛生及病院費并戶數割左ノ通追加シ其戶數割ハ本年七月一日現在ノ戶數ニ均賦ス

一金貳千四百九拾四圓五拾七錢五厘

衛生及病院費

一金貳千四百九拾四圓五拾七錢五厘

戶數割

但總戶數九萬九千七百八十三戶  
一戶金貳錢五厘

○縣令第十七號

明治十九年九月廿一日

明治十九年度地方稅追加戶數割ハ十月一日ヨリ全三十一日限徵收ス

出納公債

○大藏省訓令第四十一號

明治十九年九月一日

府縣

十九年度第二部歲入科目表免許及手數料ノ款手數料ノ項中「中學校師範學校教員免許學力試驗手數料」ノ目ヲ「中學校師範學校及小學校教員免許學力試驗手數料」ト改正ス

○內務省訓令第十八號

明治十九年九月四日

各縣



十九年度歲出豫算中縣令交際手當仕拂殘額ハ其儘知事交際手當へ組換ノ上其金額當省へ報告スヘシ

○訓令第五號

明治十九年九月四日

郡區

印紙賣捌人ヨリ返納スル所ノ印紙類代金下付方ノ儀ハ本年(六月)大藏省令第二十一號印紙賣捌規則ノ改正實施前後ヲ以テ區界ヲ立テ右下付金ノ出所ヲ殊ニスルモノニ付該代金下付ノ請求書差出方左ノ通心得ヘシ

一 本年六月三十日以前ノ返納ニ係ルモノハ歲入出々納規則第三十三條ニ依リテ歲入下戻計算書ヲ以テ其代金ノ下戻方ヲ請フヲ從前ノ通りタルヘシ

一 本年七月一日以後ノ返納ニ係ルモノハ本年當廳丙第三十五號達第十三項ニ依リテ前途之ヲ買戻スヘキモノナルヲ以テ左ノ雛形ニ照準買戻仕譯書ヲ添ヘ其下付方ヲ稟議スヘシ

(雛形) (用紙普通美濃十三行野紙)

返納印紙買戻代金下附稟議書雛形

一金何圓何拾何錢何厘  
右(當(郡區)内印紙類賣捌人事故ニ由リテ返納セル印紙類該規則第十七條ニ據リ割引ヲ以テ買戻シ候分御下附相成度候依之別紙仕譯書相添此段上申候也  
年月日 何郡區長

知事宛

(用紙普通美濃十三行野紙)

返納印紙買戻代金仕譯書雛形

一 何々印紙何錢何枚  
十九年七月一日賣捌人何誰廢業ニ付返納

此額面金何程

此割引金何程

一 何々印紙何厘何枚  
十九年七月二日賣捌人何誰休業ニ付返納

此額面金何程

此割引金何程



一何々印紙何錢何枚十九年七月二十日賣捌人  
何誰賣捌方禁止ニ付返納

此額而金何程

此割引金何程

合計額而金何圓

此割引金何圓何拾何錢

○訓令第六號

明治十九年九月四日

郡 區

本年(四月)乙第十五號達第二部歳入徵收監督手續左ノ通心得ヘシ

但明治十七年(三月)丙第四號全十八年(三月)丙第八號達ハ廢止ス

第二部歳入徵收手續

第一條 毎月徵收濟ノ金額ハ第一號書式ノ報告書ヲ製シ翌月五日迄ニ送付スヘシ

第二條 會計年度内徵收ノ完了セサルモノアルトキハ第二號書式ニ據リ會計年度内  
徵收未濟報告書ヲ製シ年度後七日以内ニ送付スヘシ  
但貸付返納金ノ不納ニ對スル納額告知書ハ取纏メ年度後十五日以内會計主務官

ニ還付スヘシ

第三條 翌年度十一月三十日マテ徵收了セサル者アルキハ第二號書式ニ準シ不納

報告書ヲ製シ翌月十日マテニ送付スヘシ

第四條 納期ヲ經過シタル未納者アルキハ嚴重督促完納セシムヘシ又延期ヲ請願ス

ルモノアルキハ其當否ヲ審査シ願書進達ノ際狀況ヲ副申スヘシ

第五條 各村ニ散在スル未納者ハ郡役所ヨリ人名調書ヲ所轄戸長ニ送付シ戸長ヲシ  
テ督促セシムルヲ得

第六條 納額告知書發布ノ後事故(貸付返納金年賦割替等ノ類)アリ該年度ノ徵收額  
ヲ減スルキハ其減額ニ對スル告知書ハ速ニ會計主務官ニ還付スヘシ

第七條 縣廳ヨリ負債有之者他ノ負債ノ爲メ身代限處分ヲ受クルキハ所轄戸長ニ於  
テ人名及揭示日限等ヲ取調郡役所ヲ經由(區ハ區長ヨリ直チニ)速ニ届出ヘシ

但各戸長役場ニ於テハ負債主人名簿ヲ備置クヘシ

第八條 諸上納金未納者絶家又ハ全戸失踪等ノ事故アルキハ其事由及年月日ヲ詳悉



十日以内ニ届出ヘシ  
第九條 既ニ發付シクル告知書ヲ水火盜難等ニ係リ紛失セシモノアルキハ其事由ヲ  
審査シ之カ届書ヲ徵シ會計主務官ニ報告スヘシ

○大藏省訓令第四十四號 明治十九年九月十四日 北海道廳 府 縣

本年三月當省令第三号歳入歳出納規則書式第六号歳入下戻計算書中へ該下戻金實  
際支出ヲ要スヘキ場所(即チ金庫局又ハ大坂金庫局出張所若クハ國庫金取扱所)出張  
場、除クシテ云々)ヲ記載スヘシ

但歳入報告未済ノ下戻ヲ請求スル場合ニ在テハ該下戻計算書ニ其納入セシ金庫ヲ  
明記シ差出スヘシ

○大藏省訓令第四十五號 明治十九年九月廿五日 北海道廳 府 縣

本年七月當省訓令第三十號諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序第三條中第一條ノ下  
ニ「第二號書式又ハ第一ノ八字第三條ノ下」ノ第四號書式ハ六字ヲ加ス

○大藏省訓令第四十六號 明治十九年九月二十七日 北海道廳 府 縣

來ル十月卅一日マテニ支拂了セサル諸記名公債元利賦金取扱方左ノ通相心得ヘシ  
一十九年度所屬元利賦金ニ關シ來ル十月三十一日マテニ未拂入爲メ殘余ヲ生スルモ  
然アルモ出納規則第三十八條ニ准シ五日以内ニ當省へ減額報告書ヲ送付スヘシ  
二前項未拂ニ係ル元利賦金ハ公債種類並ニ渡期ヲ區分シタル支拂未済報告書ヲ製シ  
十日以内ニ之ヲ當省へ送付スヘシ  
但歳入歳出納規則第七十七條及第七十八條ノ手續ヲ爲スヲ要セサルモノトス  
一十八年度所屬ノ未拂ニ係ル元利賦金ハ同年度出納閉鎖ノ期マテ當省訓令第三十號  
第三條ニ準據セズ支拂ヲナスヘシ  
但該期マテニ支拂了セサルモノアルトキハ前第二項ニ準シ取扱フヘシ

俸給旅費

○外務省令第一號 明治十九年七月十二日

交際官并領事費用條例細則ヲ定ムルヲ左ノ如シ



交際官并領事費用條例細則

第一章 在勤年俸

第一條 條例第一條ニ載スル在勤年俸日割支給ノ計算ハ其年ノ現日數ヲ以テ除シ割得タル額ヲ日數ニ乘シ支給スヘシ

第二條 妻携帶ノ公使領事參事官書記官等御用有之歸朝被命任地出發ノ際其妻病氣其他不得已事故有之同伴ニ難キトキハ其事情ヲ具シ其妻ノ出發延期ヲ外務省ヘ申請スヘシ外務省ニ於テ右ノ申請ヲ至當ト認ルトキハ其夫任地出發スルモ妻尙滞在スルトキハ妻携帶費ヲ支給スルコトアルヘシ

第二章 出發前俸給

第三條 條例第三條出發前俸給ハ始テ在勤ヲ命セラレタル者ニ限リ支給シ歸朝中他所ヘ在勤替ヲ命セラル、モノハ滯京日給ノ外ニ海外移轉費ヲ給シ出發前俸給ヲ給セシ尤歸朝滯京中奏任ヨリ勅任ニ轉シ再ヒ赴任スル者ハ始メテ在勤ヲ命セラレタルモノハ例ニ依リ出發前ノ俸給ヲ支給スヘシ

第四條 公使領事參事官書記官在勤中許可ヲ得テ妻ヲ呼寄スル者ハ官等相當ノ出發前俸給ノ二割増ヲ支給ス可シ

第三章 旅中俸給

第五條 條例第九條ノ場合ニ於テ旅中ノ日數定期ヲ超ユルトキハ外國ニ在テ乙号表旅行雜費内國ニ在テハ本例第四號表御用滯京ノ日給ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第四章 任所替移轉諸費

第六條 在勤先ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ條例第十條俸給ノ外移轉諸費トシテ丙号表ノ金額ヲ支給スヘシ

第五章 交際費及事務所費渡切

第七條 參事官書記官等ニテ公館事務ヲ擔任スルモ臨時代理公使ノ名義ナキ者ハ代理年俸ヲ賜ハラス交際費トシテ公使館ハ一箇年六百圓又領事館書記生ニテ領事館ノ事務ヲ擔任スルモ領事代理ノ名義ナキ者ハ手當トシテ同三百圓月割十五日前後ヲ區別スルヲ以テ支給ス其他公館ノ費用ハ總テ官金ヲ以テ現費仕拂フヘシ尤モ



公使領事不在中ト雖モ公館ノ費用ハ公使領事ニテ擔任スルトキハ此限ニアラス

第八條 副領事ニテ總領事又ハ領事管轄内ノ一地ニ常住シテ事務ヲ擔任スルトキハ事務扱所借料其ノ他一切ノ公費トシテ一箇年五百圓以上二千五百圓以内ノ金額月割ヲ以テ(十五日前後)區別スル支給シ精算ニ及ハス

第九條 各領事館ニ於テ其事務多端或ハ事故アリテ特ニ臨時交際費用ヲ要スルトキハ五百圓以上千圓以内ノ金額ヲ臨時給與スルコトアルヘシ

第十條 歐洲在勤ノ公使兼任國へ滯留スルトキハ旅行雜費ノ外臨時交際費用ヲシテ兼任地著翌日ヨリ同地出發前日迄ヲ限リ一日英貨一磅ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第六章 公館雇人

第十一條 公館ニ於テ事務ノ都合ニヨリ書記通辨等ノ爲メ外國人ノ雇入ヲ必要トナストキハ一館ニ一人ヲ限リ許可シ其給料ハ外務省ニ於テ之レヲ定ム依テ雇入ノ節ハ其事情及給額ヲ定メ前以テ外務省へ申請スヘシ但雇入ノ事情ニヨリ申請ノ暇ナキトキハ一時月期ヲ以テ雇入其情狀具シ外務省へ申出ヘシ勿論假雇間ノ給料公使

館ハ一箇月四百圓以内領事館ハ同五百圓以内タルヘシ

第十二條 公館雇員ノ内不時缺員アルトキノ外公館使用ノ爲メ我國人ヲ雇入ルコトヲ許サス但雇間ノ給料ハ歐米各國ニ在テハ一箇月英貨二十磅以内亞細亞地方ハ銀貨五十圓以内タル可シ

第七章 妻并從者旅費

第十三條 許可ヲ得テ妻ヲ携帯スル者ニハ任所往復及ヒ在勤中兼任國往復并任所替ノトキニ限リ妻ノ旅費トシテ甲號表ニ照テ航行費ノ二等陸路費ノ上等ヲ支給スヘシ

第十四條 許可ヲ得テ從者一人ヲ携フル者公使ニハ任所往復及在勤中兼任國往復並任所替ノトキ領事參事官書記官ニハ任所往復並任所替ノトキニ限リ其從者ノ旅費トシテ甲號表ニ照テ航行費ノ二等陸路費ノ中等ヲ支給スヘシ

第十五條 妻並從者ニシテ其夫又ハ其主ト同行シ難キ事故アリテ單行スルトキハ任所往復一次ニ限リ航行費及陸路費ヲ支給スヘシ



但御用歸朝及賜暇歸朝ノ節其都度之レヲ支給スヘシ

第十六條 公館附雇書記外國人公用ニテ在留國內外及公使兼任國ニ旅行スルモ妻並從者ノ旅費ハ支給セサルヘシ

第八章 航行費並陸路費

第十七條 航行費並陸路費ハ船車賃旅具運搬費解人足賃等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第十八條 航行費並陸路費ハ赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景況視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ公館等ニ巡迴スル者ニモ甲號表定所ノ外支給セズ

第十九條 任所往復ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡迴スル者ニハ迂迴ノ距離ニ準シ航行費並陸路費ヲ支給スヘシ

第二十條 養痾歸省等願ニ依リ歸朝スル者又ハ任所ニ於テ願ニ依リ免官スル者ニハ航行費並陸路費ヲ給セズ

第二十一條 歸省願濟日數滿テ或ハ病氣全快歸任ノ際公用ニテ滞在ヲ命セラレ出發

ヲ延期セシムル者ハ歸任一次ノ旅費ヲ支給ス

第二十二條 東京外ニ於テ拜命直ニ赴任スル者ノ旅費ハ現費仕拂ノ精算ニ依テ支給スヘシ但私用荷物運賃勅任ハ七十貫目奏任ハ五十貫目判任ハ三十五貫目迄官費ヲ以テ支給ス

第二十三條 官船或ハ官ノ備船ニテ任所ニ往復スル者ハ航行費ヲ給セス官船乗組賄料トシテ勅任ハ一日一圓五拾錢奏任ハ同一圓二十錢判任ハ同一圓九十錢ヲ支給ス但官仕賄ノ節ハ之レヲ給セス

第九章 在留國內外公用旅行雜費

第二十四條 旅行雜費ハ旅中賄料接待費馬車解人足賃公用郵便稅等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第二十五條 旅行雜費ハ公使領事以下命ニ依リ其在留國內外ヲ旅行スルトキ任所出發ノ日ヨリ歸着ノ日迄(航行費ヲ要スル日數ヲ除ク)ヲ算シ年俸ノ外乙號表ニ照ラシ其日數ニ應シテ之レヲ支給スヘシ但往復一日ノ者ニハ之レヲ給セス



第二十六條 順路ノ船車賃ニシテ甲號表ニ定額ナキモノハ實費ヲ支給ス但實費支給ノ精算帳ニハ其金額及旅次ノ順路及發着日限ヲ記載シ其館ノ長官捺印シタル証明書ヲ添フヘシ

第二十七條 旅行雜費ハ出張先二週間(着翌日ヨリ起算ス)ヲ限り全額ヲ支給シ二週間後ハ半額ヲ支給ス兼任國滞在ハ五週間(全上)ヲ限り全額ヲ支給シ其後ハ半額ヲ支給ス但國書捧呈等ノ爲メ兼任國政府ノ都合ニ依リ此期ヲ經過スルトキハ其事情已ムヲ得スト認定スルトキヨリ限リ期日後ト雖モ仍ホ全額ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十八條 前條旅費等請求ノ節ハ任地出發ヨリ各地着發及滞在ノ日時等明記シタル旅中經歷書ヲ勘定書ニ添ヘ差出スヘシ

第二十九條 在勤者ノ内事務ノ都合ニヨリ外務省ノ許可ヲ得テ甲廳ノ官員ヲシテ乙廳ニ至リ其事務ヲ執ラシムルトキハ其俸給ハ甲廳ヨリ旅費並旅行雜費ハ乙廳ヨリ支給シ留勤中ハ旅行雜費ヲ給セズ但乙廳留勤中其廳ノ公用ニテ旅行スルトキハ其應ヨリ旅費並旅行雜費ヲ支給スヘシ

第三十條 在哥爾薩港領事館管內漁場巡迴中日數ニ應シ旅行雜費ヲ支給シ且賄道具及運輸人馬賃等現場仕拂官費ヲルヘシ

第十章 公使領事以下恩給并一時賜金

第三十一條 公使領事以下ノ恩給并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ハ本例第四號表恩給并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ニ依ル

第三十二條 公使領事以下海外ニ於テ死亡セシキハ埋葬墓碑ノ費用ハ官ヨリ之レヲ支給ス

第十一章 公館借入及移轉

第三十三條 公館ニ充ツル爲メ借入ル、家屋ノ借料ハ年々定ムル所ノ豫算額ヲ超ユヘカラス若シ此定額ヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス但此條例發行前既ニ借入レ約定ヲ結ヒタル家屋ニシテ借料定額ヲ超エタルモノハ其期限迄ハ條約ニ隨ヒ支給スヘシ

第三十四條 公館借入條約ハ正副二通ト爲シ其副書ヲ外務省ヘ差出スヘシ



第三十五條 公館ノ爲メ借入ル、家屋ハ備付什器ナキ家屋トス若シ什器アル家屋ヲ借受ケ夫レカ爲メ定額ヲ超過スルトキハ公使領事ノ自辨トス

第三十六條 公館移轉ノ際新舊兩館ノ借料重複スルトキハ一箇月ニ限リ官費ヲ以テ之レヲ仕拂ヒ其餘ハ公使領事ノ自費トス

第三十七條 公館ノ移轉ニ依リ手数料謝金其他新館ノ窓掛ケ敷物等總テ移轉ヨリ生スル費用ハ公館經費ヲ以テ支辨スヘシ若シ移轉ノ爲メ定額外ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ヘ具狀シ費用支出ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ移轉スヘカラス此許可ヲ得ヌシテ定額ヲ超過スルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス

第三十八條 公館移轉ノ際荷物運搬ノ費用ハ總テ官費ヲ以テ支辨スヘシ

第十二章 公館備付品科目買上代價額並修理

第三十九條 公館備付品科目ハ丁号表ニ依ル

第四十條 公館諸什器買上代定額ハ歐米公使館ハ銀貨壹萬五千六百圓清國公使館ハ同壹萬三千七百圓朝鮮國公使館ハ通貨壹萬貳千圓領事館ハ總テ銀貨四千圓(朝鮮

國領事館ハ通貨 公館創立ノ際一度限リ之レヲ支給スヘシ

第四十一條 公館備付ノ諸什器ハ官費ヲ以テ修理若クハ買足ヲ爲シタルモノト公使領事ノ自費ヲ以テ修理スヘキモノトヲ分チ什器目錄ヲ製シ其一冊ハ外務省ニ差出シ一冊ハ公館ニ備置キ物品檢査ノ用ニ供スヘシ故ニ物品缺損アルガ又ハ買足等ノ爲メ員數ニ増減ヲ生スルトキハ其時々外務省ヘ報告ノ上目錄帳ヲ加除スヘシ

第四十二條 公館備付什器ノ官費修理ハ其定額ヲ超ユヘカラス若シ之レヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自費トス但年曆ヲ經タル等ニテ修理費定額ニ超過スヘキトキ及公使領事自費ヲ以テ修理スヘキ什器ニテモ年曆ヲ經タル爲メ其自力ニ及ヒ難キ巨多ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ニ具申スヘシ外務省於テハ其申請ヲ至當ト認ムルトキハ公使館ハ銀貨二千圓(朝鮮國ハ通貨)以下領事館ハ同八百圓(朝鮮國ハ通貨)以下ノ修理費若クハ買足料ヲ支給スルコトアルヘシ

第四十三條 公使館庖廚具及庶諸雜具ノ費用トシテ銀貨五百圓(朝鮮國ハ通貨百圓)公使初赴任ノ節一度限リ支給シ精算ニ及ハス



第十三章 公館經費

第四十四條 公使領事館ノ經費ニ立ツヘキ各件左ノ如シ

一 雇人料ノ内

公使領事館雇人料

裁判所及護衛并警察所ニ使役スル押丁并小使雇料ニ限ル

一 器具及圖書費ノ内

器具

丁號表一類備付ノ内公務所書房具ヲ除キ其他ノ諸器具

戒具

朝鮮國領事館ニ限ル

書籍地圖

製本費

一 被服費ノ内

巡查徽章帶具費

徽章、帶劔、捕繩、手帖、呼子笛等（清國并朝鮮國ニ限ル）

一 通信運搬費ノ内

電信料

運搬費

保險料

一 地所家屋借料

公館借料

公館用地借料

一 雜費ノ内

諸謝金

公館借入或ハ購買等ノ節其約定書ニ付其地法律家ノ檢閲ヲ依頼スルトキ又ハ臨時公館ニ立訴訟若シテ要求ヲ爲シタルヘカラサル場合ニ於テ其地ノ法律取



調ニ關シ代言人ニ依頼スルトキニ限ル

廣告料

諸手數料

道路疏水手當及家屋地稅等

火災保險料 公館、公館備付器具

爲換料

印紙料

一修繕費

家屋修繕費

帝國政府ニ屬スル家屋ノ修繕又ハ借家ナレハ契約書ニ依リ貸主ニ於テ負擔セ

サル修繕ニ限ル

一裁判及囚徒費

一警察及護衛費

但巡查死傷手當并賄料ニ限ル

右實費精算ヘキモノニ付證書ヲ添ヘテ之レヲ證明スヘシ

一雇入料ノ内

公使館雇入料

僕長、馭者、馬車附添、門番、公務所小使、玄關番、橋夫等

一器具及圖書費ノ内

新聞雜誌類

内外各種ノ新聞、雜誌、アルマナツツ、ディレククトレー、人員錄、路程表等ノ類

一筆紙墨文具

用紙

各種ノ日本紙、西洋紙、計算表用紙、諸封袋等一切ノ紙類但郵引公館記名印刷

費等

筆墨印肉類



各種以筆類、常用墨、朱墨、墨汁、繪ノ具、白墨印肉等ノ類

視小道具類

硯石、硯箱、墨壺、墨汁入、同臺、圖引道具、石盤、筆盤、水入、糊入、肉池、繪ノ具皿、

簿記具、筆架、文鎮、鉞裁刀、小刀、錐、綴金、留針、字消、刷毛、海綿、復寫版、

其他文房一切ノ諸道具新規買入並修復共

諸帳簿、新規修補共

一消耗品

薪炭油茶類

朝鮮國護衛所及警察所ニ限ル

雜品

糊、封蠟、付木、除蟲藥品、書類綴絲、締紐、締絲等ノ類

一被服費ノ内

雇人被服

前項ニ細記スル雇人ノ仕被セ衣服、冠物、手袋、雨具、靴ノ類

一通信運搬費ノ内

公用郵便税

一切ノ郵便賃、不足税及郵便發送ノ爲メニ要スル費用等

一雜費ノ内

舟馬車類雇賃

舟、車馬、借馬、雜乘物等ノ類但領事館ハ端舟雇賃ニ限ル

馬飼料

飼食費、馬毛拵料、蹄鉄打替、馬匹治療費等但公使館ニ限ル

一宴會費

天長節其他交際ニ係ル宴會諸費

但領事館ハ天長節ニ限ル

右費用ハ一箇年定額ヲ十二分ニ一箇月毎ニ各科目定額ノ高ヲ拂ヒ立テ過不足ヲ



問ハシ渡切ノ分ニ付證書ヲ添ユルニ不及又明細品名ヲ掲シルニ不及  
右月費精算ノ事

但此箇條ニ明文ナキ費用ハ公使領事ノ自辨タルヘシ

第四十五條 經費金ノ内定額ヲ以テ渡切ノ費用ハ不足アルモ追給セズ又餘リアルモ

返納ニ及ハズ其定額金ヲ以テ彼此流用支辨スヘシ

第四十六條 經費金ノ内實費精算ノ分ハ年々外務省ヨリ通知スル處ノ豫算ニ基キ支

出シ各科目ニ就テ超過セザランコトヲ豫計スヘシ

第四十七條 公館經費ノ内定額ヲ以テ渡切ノ分ハ公使領事交代ノ節事務引繼濟ノ當

日ヲ以テ區分シ日割計算スヘシ

第十四章 公館非常準備金

第四十八條 公使館ハ銀貨五千圓(朝鮮國ハ通貨四千圓)領事館ハ總テ同三千圓(朝

鮮國ハ通貨)迄ハ非常已ムヲ得ザルトキヨリ公使領事ニ於テ大藏省預ケ金ノ内

或ハ預ケ金無之場所ハ其他ノ銀行ヨリ借入ルルコトヲ得ルニ右ハ公館屬員等ノ定

員ニ缺員アルトキ一時雇員費及漂民窮民貸與費患者費埋葬費等ノ如キ定額外臨時

ノ仕拂ニ充テ至急外務省ニ報告シ銷還ノ手續ヲ爲スヘシ但公館所在地ニ於テ借金

スヘキ銀行ナキトキハ本文ノ金額ヲ豫メ送致ヲ置ヘシ

第四十九條 右準備金ハ大藏省ノ主管ナルヲ以テ借入等ノ手續ハ同省ノ通知ニ據リ

取扱フヘシ

第十五章 回送金

第五十條 各公館經費金ハ其年額ヲ四季ニ割毎季節前大藏省ヨリ各公館ニ送達シ右

送金ニ對スル明細ノ仕譯書ハ外務省ヨリ之レテ送付スヘシ

第五十一條 前條ノ送金ヲ受取タルトキハ直ニ大藏省金庫局長宛領收證書ヲ發シ其

旨外務省ニ報告スヘシ

第十六章 經費金出納

第五十二條 在勤員年俸ハ三箇月分ヲ其中間ノ月ノ初日(假令ハ一月ヨリ三月迄ノ

分ハ其二月ノ初日ニ於ケル如シ)ニ渡方取計ヒ經費金ハ第十三章ノ科目ニ照ラシ



支出シ現金受拂簿等ヲ設ケテ之レカ出納ヲ明瞭ニスヘシ

第五十三條 常費外臨時費用ヲ要スルトキハ事ノ大小ヲ不論總テ外務省ヘ申請シ許  
可ヲ受クヘシ但非常急場ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第五十四條 公館經費金ハ他費ヘ繰替支出スルコトヲ許サス萬一非常ノ場合ニ際シ一  
時繰替ヲ爲サ、ルヲ得サルトキハ直ニ繰替勘定帳ヲ以テ外務省ヘ報告シ償還ノ手  
續ヲナシ本拂ノ分ト混用スヘカラス

第十七章 經費金勘定

第五十五條 每一箇月其出納スル處ノ金員科目及ヒ重要ヲ摘記シタル精算書ヲ雛形  
ニ倣ヒ調製シ翌月十五日迄ニ其地ヲ發シ外務省ニ送付スヘシ但實費精算ノ分ニ對  
シハ正當請取証書寫或ハ事故アリテ請取証書ナキ分ハ其事故ヲ記シタル其館長官  
ノ証明書ヲ添ヘ又渡切ノ費用ハ其館長官ノ領收証書ヲ添付スヘシ

第五十六條 甲月ニ買入レタルモノ或ハ甲月ニ屬スヘキ費用ヲ乙月ニ於テ仕拂フコ  
ト得ルト雖モ其勘定帳ヲ製スルニハ乙月ニ於テ現實仕拂タルニ拘ハラズ甲月分ノ

勘定帳ニ記載スヘシ但借家料及ヒ保險料ノ類前拂後拂等ノ約定アルモノハ此限ニ  
アラス

第五十七條 各館於テハ每一月其出納スル所ノ現金受拂計算書ヲ別紙雛形ニ據リ調  
製シ毎月精算書ト共ニ外務省ヘ差出スヘシ

第十八章 収入金及返納金

第五十八條 旅券其他諸手數料及ヒ不用品拂下代金等總テ收入金ハ一箇月分取纏メ  
兼テ外務省ヨリ回付シテ明細仕譯書用紙ニ書載セ外務省及各主管廳ヘ報告シ現  
金ハ其館ニ監守大藏省ノ指揮ニ隨ヒ處分スヘシ

第五十九條 公使領事以下官員歸朝スルカ或ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ兼テ回  
付シタル本年俸金ニ對シ過不足ヲ精算シ無遲滯外務省ヘ報告スヘシ尤殘餘アル  
トキハ預リ證書ヲ以テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ但任所替ノ者ハ便宜之レヲ新任所ヘ  
轉送スルモ妨ケナシ

第六十條 由年度末ニ至ル經費金等殘餘ヲ生スルトキハ預リ證書ヲ以テ其年度末期勘



定帳差出ノ節共ニ返納スルノ事

第十九章 雜

第六十一條 官金ハ其公館へ堅牢ナル器物ヲ備へ貯藏スルカ或ハ信用アル銀行へ預ケ置ク等便宜ニ任スト雖モ銀行へ預ケ入ルトキハ其銀行名等像ヲ外務省へ報告スヘシ

第六十二條 備付什器等不用ニ屬シ拂下ケテ爲ストキハ其品名及原價ヲ付シ前以テ伺出ヘシ但拂下ケ代金ハ他費へ仕用スルヲ許サス

第六十三條 公使領事館へ各省廳ヨリ依頼スル注文品代價ハ其依頼廳ノ通知額ヲ目途ニ其地最寄ニアル正金銀行支店ヨリ金額ヲ引出シ依頼廳ニ向テ逆爲換ヲ取組之レカ償還ノ手續ヲナシ經費金等ヲ以テ繰替ヲ爲スヘカラス

第六十四條 清國或ハ朝鮮國ニ在ル公使館若クハ領事館ニ雇ノ名義ヲ以テ在勤スル者ハ費用條例ニ據テ左ノ通支給ス

一 在勤俸給ハ時々之レヲ定ムル

一本邦ニテ拜命ノ者ニ限リ出發前支度料トシテ在勤俸ノ一箇月分ヲ支給ス

一 滯京及旅中ノ俸給ハ在勤俸ノ半額トス

一 航費ハ費用條例中定額アル分ハ右ノ二等ヲ給シ定額ナキ分ハ中等若クハ中等ナキトキハ下等船車賃等實費ニ基キ支給スヘシ但私用荷物運賃ハ三十貫目迄ヲ限リ官費支給スヘシ

一 航海中ノ日常ハ金六拾錢ヲ給ス但官船ニテ渡航ノ節ハ右日常ノ外賄料トシテ一日金六拾錢ヲ支給スヘシ

一 内地滯在中ノ日常金三十五錢ヲ支給シ前欸ノ航海日常ハ支給セズ

一 外國諸港ニ滯在スルトキハ一般旅費定則等外ニ準シ旅舍賄料朝鮮國ハ一日金七拾錢ヲ支給スヘシ

第六十五條 在勤中公用ニテ旅行ノ節ハ旅行雜費トシテ一日金壹圓三拾錢ヲ日數ニ應シ支給スヘシ

第六十六條 妻呼寄願ハ本人ノ願書ニ限ル留守宅或ハ親戚等ヨリ願出ルモ之レヲ許



サス尤本人より依頼状等其情願を證スル丈クシテノ際ハ此限ヲアラス  
(甲乙丙丁號表畧ス)

○外務省令第二號 明治廿九年八月二日 朝鮮國在勤外務省巡查給與規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

朝鮮國在勤巡查給與規則

第一章 奉職年限ノ事

第一條 在朝鮮國公使領事館附巡查奉職ノ者ハ必ス滿三箇年以上引續在勤スヘキ者トス三箇年未滿ノ者ハ辭職ヲ願出ツルモ之ヲ許サズ但疾病其他已ムヲ得サル事故アリ職務ニ從事スルヲ能ハサルモノト公使又ハ領事ニ於テ認定スルトキハ三箇年未滿ト雖トモ其職ヲ免シ歸國セシムルコトアル

第二章 俸給ノ事

第二條 朝鮮國公使領事館附巡查月俸ハ第一号表ノ通支給スヘシ

但一月ヲ前後ニ分テ新任十五日前ニ在ル者ハ其全額十六日後ハ半額昇等増給モ亦準之降等及免職ノ者十五日前ニ在ルトキハ尙舊等俸ノ半額ヲ給シ十六日後ハ全額ヲ給スヘシ

第三條 拜命ノ者ニハ出發前滯京及本邦任所往返旅中共月俸全額ヲ支給スヘシ

第四條 巡查在勤滿三箇年以上ニシテ許可ヲ得賜暇歸朝スル者ニハ前條ニ準シ旅中及滯京中共月俸全額ヲ支給スヘシ

但賜暇日數滿テ歸任ノ際疾病ニ依リ出發ヲ延期スル者ハ其延期スル日數ハ月俸半額(十五日前後ヲ區分ス)若シ官ヨリ延期ヲ命スルモノハ全額ヲ支給スヘシ

第三章 在勤月手當ノ事

第五條 朝鮮國在勤中ハ第二號表ノ在勤月手當ヲ支給スヘシ

第六條 在勤月手當ニ任所着發十五日前後ヲ區分シ月割支給スルモノトス

第四章 支度料ノ事

第七條 朝鮮國公使領事館附巡查拜命ノ者ニハ出發前支度料ヲ第三號表ノ通支



給ス此支度料ハ始テ在勤ヲ命セラレタル者ニ限リ之ヲ支給ス歸朝滯京中任所替テ命スルモ之ヲ給セス

第八條 出發前官ノ都合ヲ以テ在勤ヲ免シ及出發前轉任或ハ死去スル者ニハ右支度料ノ半額ヲ支給ス願ハ依リ免シタル者ニハ一切支給セズ

第五章 旅費ノ事

第九條 東京ヨリ各任所へ往返スル者ニハ費用條例細則甲號表(二等)ノ旅費ヲ支給ス右ヲ以テ各任所間船車賃旅具運搬解入足賃等一切ノ旅費ヲ賄フヘシ

但精算ヲ要セス

第十條 他府縣ヨリ各任所へ往返スル者ノ旅費ハ現場仕拂ノ精算ニ依テ之ヲ支給ス尤本籍ヨリ乗船ノ港(本籍ヨリ最近ノ港ヲ指ス)迄ノ陸路旅費其里數ニ應シ一日十里詰ノ割ヲ以テ日當金五拾錢ト定ム故ニ旅中經歷書等明細取調差出スヘシ

但此經歷書ニハ各所發着ノ日限並滯留ノ日數及事由乗船名号等詳細明記スル

モノトス

第十一條 私用荷物ノ運賃二十貫目迄官費ヲ以テ之ヲ仕拂其以上ハ自辨タルヘシ

第十二條 現場仕拂ノ精算帳ニハ實費請取證書ヲ添付スヘシ若シ請取證書取難キ場合於テハ其事由ヲ記シタル證明書ヲ本八ヨリ差出サセ其館長官於テ不相當ノ廉無之ト認ムルトキハ之レヲ捺印シ以テ證書ニ代用スヘシ

第十三條 第二十條ノ場合ニヨリ支給スル歸國旅費ハ在勤ノ地ヨリ本籍ニ近キ港(嚴原、長崎、博多、下ノ關、神戸、横濱)迄ノ下等船客料上陸ノ地ヨリ本籍迄ハ陸路毎十里日當五拾錢ト定ム

但旅中經歷書差出方ハ第十條ニ同シ

第十四條 第一條但書ノ場合ニ於ケル歸國旅費ヲ給スルト否ニ關シテハ公使或ハ領事ヨリ其事情ヲ具シ外務大臣ノ裁命ヲ請フヘシ

第六章 旅行日當ノ事

第十五條 各任所往返ノ日數間ハ第三號表中ノ旅行日當ヲ給ス故ニ途中定期郵船滯泊(内地各港ヲ指ス)ノ第一時上陸スルモ解車賃及旅舍賄料ハ之ヲ支給セズ



第十六條 各任所官船或官ノ雇船ニテ往返スル者ニハ船客料ヲ給セス第三号表  
 中官船渡海日當同賄料ヲ支給スヘシ此渡航中前款ノ日當ヲ支給セス  
 第十七條 任所往返中船破損スルハ或ハ船便待合セ其他非常ノ事故アリテ途中ニ滯  
 留スル者ニハ第三号表ニ照ラシ滯留賄料ヲ給ス尤モ内地滯留ニ係ル日數間ハ前款  
 ノ旅行日當ヲ支給セス

第七章 旅行雜費ノ事

第十八條 朝鮮國在勤ノ巡查公用ニテ其國內旅行スル者ニハ任所出發ノ日ヨリ歸着  
 ノ日迄ヲ算シ第三号表中ノ旅行雜費ヲ支給ス右ヲ以テ賄料等旅中ニ起ル所ノ雜費  
 ナ取賄フヘシ尤人馬船車賃ハ現場仕拂ノ上其精算帳ヲ差出スヘシ  
 但此精算帳ヘハ旅行ノ正路及發着日限トテ詳細記載シタル旅中經歷書並實費請  
 取證書ヲ添フヘシ

第八章 任所替ノ事

第十九條 在勤中任所替ヲ命ゼラレシ者ニハ辭令拜受之日ヨリ新任ノ俸給ヲ支給

シ甲地出發ヨリ乙地着迄旅費ハ第五章日當ハ第六章ニ照ラシ支給スヘシ

第九章 賜暇ノ事

第二十條 巡查在勤滿三箇年已上ノ者ニハ公使或ハ領事ニ於テ公用ノ都合ヲ見計ヒ  
 往返ヲ除クノ外二箇月間休暇ヲ得テ歸朝スルコトヲ許ス此往返旅費日當ハ第五章第  
 六章ニ照ラシ支給ス尤本人ノ情願ニ依リ出京セス直ニ歸省スル者ニハ第五章第十  
 條ノ通其郷里迄ノ旅費ヲ給ス

但往返ノ途次願濟ノ上歸郷スル者ハ願路ノ日數ヲ除キ其餘ノ日數ハ賜暇日限内  
 ヘ加算スヘシ

第十章 負傷者免職旅費及扶助料ノ事

第二十一條 公務上傷痍ヲ受ケ職務ニ堪ヘ難ク免職スル者ニハ在勤年數ニ拘ハラヌ  
 第九條第十三條ニ照ラシ巡查給助例ニ拘ハラヌ特ニ歸國旅費ヲ給ス  
 第二十二條 公務上死傷、吊祭扶助療治料等ノ儀ハ明治十五年七月十七日內務省達  
 第四十一號巡查給助例ニ據テ之ヲ支給スヘシ



第十一章 海外於テ死亡セシキノ事

第二十三條 巡查任地ニ於テ死亡シタルトハ官ヨリ埋葬費及墓碑建設費ヲ支給スヘシ

第十二章 懲罰ノ事

第二十四條 職務ヲ惰ル者アルトキハ之ヲ明治九年八月五日內務省乙第九十二號巡

査懲罰例ニ照シ公使或ハ領事ニ於テ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十三章 補缺員ノ事

第二十五條 巡查缺員ノ時實際之ヲ補缺セサルチ得サル場合ニ於テハ公使或ハ領事

ニ於テ先ツ一箇月極メテ以テ相當ノ者(可成巡查採用內規合格ノ者)ヲ雇用シ其旨

ヲ具申スヘシ

但該備ノ者ニハ月給拾五圓以內ニシテ月手當ヲ給セス

第一号 朝鮮國在勤巡查月俸表

巡查	月俸
金拾圓ヨリ	金貳拾圓マテ

第二号

朝鮮國在勤巡查月手當表

巡查	京城	仁川	元山	釜山
金貳拾圓ヨリ	金三拾圓マテ	金三拾圓マテ	金三拾圓マテ	金三拾圓マテ
官名	支度料	旅行日當	官船渡海	官船乗組并本邦或朝鮮國內或ル港ニ滞留賄料
巡查	三拾圓	三拾錢	四拾錢	三拾五錢
			壹圓	壹圓二拾錢

○內務省令第十五號

明治十九年九月六日

北海道廳

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

郡區書記ノ旅費ハ國令第十四号內國旅費規則ニ據リ六等旅費ヲ支給スヘシ

但地方ノ情况ニ據リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

○大藏省訓令第四十三號

明治十九年九月十三日

廳府縣

備員俸給支給方ノ儀ハ判任官ノ權衡ヲ失ハサル様適宜之ヲ定メ當省ヘ届出ヘシ



○縣令第三十號 明治十九年九月二十九日

郡區書記戸長以下旅費額左之通更正シ内國旅費規則ニ據リ之ヲ支給スヘシ  
但戸長ノ役場部内戸長役場筆生全雇ノ郡區内旅行ハ日當ノミヲ給シ瀛車瀛船賃ハ  
實費ニ依リ支給スヘシ

郡區書記戸長以下旅費額

官給	縣外		縣内		並部内	
	瀛車	瀛船	瀛車	瀛船	瀛車	瀛船
郡區書記	一哩每ニ	每ニ	一哩每ニ	一日每ニ	一哩每ニ	一日每ニ
全	金六錢	金六錢	金八錢	金七拾錢	金六錢	金六錢
備	金五錢	金五錢	金七錢	金五拾錢	金五錢	金三拾錢
戸長	金六錢	金六錢	金八錢	金七拾錢	金六錢	金六錢
全	金五錢	金五錢	金七錢	金五拾錢	金五錢	金三拾錢
戸長役場筆生	金五錢	金五錢	金七錢	金五拾錢	金五錢	金三拾錢

警察

○内務省令第十八號 明治十九年九月二十七日 廳府縣(東京府ヲ除ク)

警察官吏禮式左ノ通之ヲ定ム

警察官吏禮式

- 第一條 警察官吏制裝ヲ爲シタルトキハ以下各條ニ從ヒ禮式ヲ行フヘシ
- 第二條 凡ソ禮式ヲ行フニハ姿勢ヲ正シ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ
- 第三條 禮式ヲ別ツコト左ノ如シ

- 一 最敬禮
- 二 敬禮

第四條 最敬禮ハ五步前ニ於テ正面ノ方向ヲ取リテ直立シ兩足ヲ整ヘ兩手ヲ垂下シ  
首ヲ禮式ヲ受クヘキ人ニ對向シ其人ノ通過シ了ルノ間之ニ注目スヘシ  
警部補以上ニ在テハ前項ノ外仍ホ禮式ヲ受クヘキ人ノ正面ニ來リタルトキ右手ヲ  
舉テ帽ニ當ツヘシ



第五條 敬禮ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ對シ五歩前ニ於テ左手ヲ垂下シ右手ヲ舉ケ五指ヲ整閉シ第一關節ヲ帽ノ下端ニ當テ之ニ注目スヘシ

第六條 警部補以上ハ天皇三后皇太子及皇族ニ對シテ最敬禮ヲ行フヘシ  
馬上ニ在ルモノハ正面ノ方向ヲ取り馬ヲ駐メ禮式ヲ行フテ道路狹隘ニシテ之ヲ爲シ得ヘカテサルキハ韁ヲ縮メテ馬首ヲ舉ケ通過ノ際右手ヲ舉ケ帽ニ當ツヘシ  
内閣總理大臣各省大臣正式勅使及東京ニ在テハ警視總監東京府知事其他ノ府縣ニテハ所屬ノ知事並ニ上班ノ警察官ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ

第七條 巡查ハ天皇三后皇太子皇族内閣總理大臣各省大臣正式勅使及ヒ東京ニ在テハ警視總監東京府知事其他ノ府縣ニ在テハ所屬ノ知事ニ對シ最敬禮ヲ行ヒ其他上班ノ警察官ハ敬禮ヲ行フヘシ

第八條 本邦駐在ノ各國公使クルコトヲ認知シタルトキハ警部補以上ニ在テハ敬禮ヲ行ヒ巡查ハ最敬禮ヲ行フヘシ

第九條 物品ヲ携帯シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ禮式ヲ受クヘキ人ニ行逢フタ

ル際之ニ注目シ若シ一手ニ攜帶スルトキハ他ノ一手ハ之ヲ垂下スヘシ  
帽ヲ冠セサルトキ亦之ニ注目シ兩手ヲ垂下スヘシ

第十條 駐立スル際禮式ヲ受クヘキ人ノ通過スルトキハ正面ノ方向ヲ取り其儘兩手ヲ垂下シ直立スヘシ若シ椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ本文ノ禮式ヲ行フヘシ

第十一條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シテ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ禮式ヲ行ヒ其他ノ者ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ

第十二條 全班警察官吏ハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第十三條 警衛消防囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スヘキ職務ニ從事スルトキハ禮式ヲ行フノ限ニアラス



明治十九年<sup>十二</sup>五月二十六日出版御届

宮城縣庶務課



